

社会福祉援助技術演習 I (SA) § 社会福祉援助技術演習 (SA)

13215

担当者名 / Instructor 櫻谷 真理子

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

この授業は、「社会福祉援助技術実習指導II」「社会福祉援助技術実習指導III」と連動して行う。現場実習の事前・事後学習と関連させながら、実習先での具体的な援助場面を想定した事例検討やロールプレー、援助のシミュレーション(アセスメント、計画)等による倫理・知識・技術の習得および自己覚知をめざす。前期には、相談援助の理念(価値)、原理原則、理論・モデル、概念、方法、技術を実践に適用する方法を学ぶ。後期は、実習体験の振り返りと事後学習を通して、前期に学んだことをより深く理解し、実践する力をつけるとともに、個別の事象や実践を一般化・普遍化できる力をつける。

到達目標 / Attainment Objectives

1. 理論やモデルに基づいて、実習先のサービス利用者(地域)の状況、ニーズ、可能性、必要な援助(介入)について説明することができる。
2. 実習先分野での援助のプロセスとその内容について説明できるとともに、援助を実践するための基本技能を身につけている。
3. 実習先分野で学んだ倫理・知識・技能を他の福祉分野のサービス利用者理解や実践に適用できる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本科目の履修にあたり、「社会福祉援助技術実習指導I」を前年度に履修しておかなければならない。また、本科目履修と同年度前期には「社会福祉援助技術現場実習指導II」「社会福祉援助技術演習III」を、夏期集中で「社会福祉援助技術現場実習」を、後期には「社会福祉援助技術現場実習指導III」を履修することが必要である。さらに、「社会福祉援助技術論」および「ソーシャルワーク論」および実習分野に関わる社会福祉士指定科目を履修していることが望まれる。

授業スケジュール / Course Schedule

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind 割合 / Percentage 評価基準等 / Grading Criteria etc.

平常点評価 100 % 演習への取り組み状況、レポート、毎週のミニレポートなどを総合的に評価する。

日常点評価は、評価基準に基づいて厳しく行う。

欠席1回1点、遅刻0.5点、レポート提出なし1点、レポート提出遅れ0.5点で減点を行い、5点以上減点となった場合に不合格となる。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

授業中に情報提供する。

参考書 / Reference Books

授業中に情報提供する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

授業中に情報提供する。

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class (Including Instructor Contact Information)

その他 / Others

拡張項目

社会福祉援助技術演習 I (SB) § 社会福祉援助技術演習 (SB)

13216

担当者名 / Instructor 岡本 裕子

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

この授業は、「社会福祉援助技術実習指導II」「社会福祉援助技術実習指導III」と連動して行う。現場実習の事前・事後学習と関連させながら、実習先での具体的な援助場面を想定した事例検討やロールプレー、援助のシミュレーション(アセスメント、計画)等による倫理・知識・技術の習得および自己覚知をめざす。前期には、相談援助の理念(価値)、原理原則、理論・モデル、概念、方法、技術を実践に適用する方法を学ぶ。後期は、実習体験の振り返りと事後学習を通して、前期に学んだことをより深く理解し、実践する力をつけるとともに、個別の事象や実践を一般化・普遍化できる力をつける。

到達目標 / Attainment Objectives

1. 理論やモデルに基づいて、実習先のサービス利用者(地域)の状況、ニーズ、可能性、必要な援助(介入)について説明することができる。
2. 実習先分野での援助のプロセスとその内容について説明できるとともに、援助を実践するための基本技能を身につけている。
3. 実習先分野で学んだ倫理・知識・技能を他の福祉分野のサービス利用者理解や実践に適用できる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本科目の履修にあたり、「社会福祉援助技術実習指導I」を前年度に履修しておかなければならない。また、本科目履修と同年度前期には「社会福祉援助技術現場実習指導II」「社会福祉援助技術演習III」を、夏期集中で「社会福祉援助技術現場実習」を、後期には「社会福祉援助技術現場実習指導III」を履修することが必要である。さらに、「社会福祉援助技術論」および「ソーシャルワーク論」および実習分野に関わる社会福祉士指定科目を履修していることが望まれる。

授業スケジュール / Course Schedule

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind 割合 / Percentage 評価基準等 / Grading Criteria etc.

平常点評価 100 % 演習への取り組み状況、レポート、毎週のミニレポートなどを総合的に評価する。

日常点評価は、評価基準に基づいて厳しく行う。欠席1回1点、遅刻0.5点、レポート提出なし1点、レポート提出遅れ0.5点で減点を行い、5点以上減点となった場合に不合格となる。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

授業中に情報提供する。

参考書 / Reference Books

授業中に情報提供する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

授業中に情報提供する。

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class (Including Instructor Contact Information)

その他 / Others

拡張項目

社会福祉援助技術演習 I (SC) § 社会福祉援助技術演習 (SC)

13217

担当者名 / Instructor 廣末 利弥

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

この授業は、「社会福祉援助技術実習指導II」「社会福祉援助技術実習指導III」と連動して行う。現場実習の事前・事後学習と関連させながら、実習先での具体的な援助場面を想定した事例検討やロールプレー、援助のシミュレーション(アセスメント、計画)等による倫理・知識・技術の習得および自己覚知をめざす。前期には、相談援助の理念(価値)、原理原則、理論・モデル、概念、方法、技術を実践に適用する方法を学ぶ。後期は、実習体験の振り返りと事後学習を通して、前期に学んだことをより深く理解し、実践する力をつけるとともに、個別の事象や実践を一般化・普遍化できる力をつける。

到達目標 / Attainment Objectives

1. 理論やモデルに基づいて、実習先のサービス利用者(地域)の状況、ニーズ、可能性、必要な援助(介入)について説明することができる。
2. 実習先分野での援助のプロセスとその内容について説明できるとともに、援助を実践するための基本技能を身につけている。
3. 実習先分野で学んだ倫理・知識・技能を他の福祉分野のサービス利用者理解や実践に適用できる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本科目の履修にあたり、「社会福祉援助技術実習指導I」を前年度に履修しておかなければならない。また、本科目履修と同年度前期には「社会福祉援助技術現場実習指導II」「社会福祉援助技術演習III」を、夏期集中で「社会福祉援助技術現場実習」を、後期には「社会福祉援助技術現場実習指導III」を履修することが必要である。さらに、「社会福祉援助技術論」および「ソーシャルワーク論」および実習分野に関わる社会福祉士指定科目を履修していることが望まれる。

授業スケジュール / Course Schedule

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind 割合 / Percentage 評価基準等 / Grading Criteria etc.

平常点評価 100 % 演習への取り組み状況、レポート、毎週のミニレポートなどを総合的に評価する。

日常点評価は、評価基準に基づいて厳しく行う。欠席1回1点、遅刻0.5点、レポート提出なし1点、レポート提出遅れ0.5点で減点を行い、5点以上減点となった場合に不合格となる。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

授業中に情報提供する。

参考書 / Reference Books

授業中に情報提供する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

授業中に情報提供する。

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class (Including Instructor Contact Information)

その他 / Others

拡張項目

社会福祉援助技術演習 I (SD) § 社会福祉援助技術演習 (SD)

13218

担当者名 / Instructor 山田 尋志

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

この授業は、「社会福祉援助技術実習指導II」「社会福祉援助技術実習指導III」と連動して行う。現場実習の事前・事後学習と関連させながら、実習先での具体的な援助場面を想定した事例検討やロールプレー、援助のシミュレーション(アセスメント、計画)等による倫理・知識・技術の習得および自己覚知をめざす。前期には、相談援助の理念(価値)、原理原則、理論・モデル、概念、方法、技術を実践に適用する方法を学ぶ。後期は、実習体験の振り返りと事後学習を通して、前期に学んだことをより深く理解し、実践する力をつけるとともに、個別の事象や実践を一般化・普遍化できる力をつける。

到達目標 / Attainment Objectives

1. 理論やモデルに基づいて、実習先のサービス利用者(地域)の状況、ニーズ、可能性、必要な援助(介入)について説明することができる。
2. 実習先分野での援助のプロセスとその内容について説明できるとともに、援助を実践するための基本技能を身につけている。
3. 実習先分野で学んだ倫理・知識・技能を他の福祉分野のサービス利用者理解や実践に適用できる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本科目の履修にあたり、「社会福祉援助技術実習指導I」を前年度に履修しておかなければならない。また、本科目履修と同年度前期には「社会福祉援助技術現場実習指導II」「社会福祉援助技術演習III」を、夏期集中で「社会福祉援助技術現場実習」を、後期には「社会福祉援助技術現場実習指導III」を履修することが必要である。さらに、「社会福祉援助技術論」および「ソーシャルワーク論」および実習分野に関わる社会福祉士指定科目を履修していることが望まれる。

授業スケジュール / Course Schedule

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind 割合 / Percentage 評価基準等 / Grading Criteria etc.

平常点評価 100 % 演習への取り組み状況、レポート、毎週のミニレポートなどを総合的に評価する。

日常点評価は、評価基準に基づいて厳しく行う。欠席1回1点、遅刻0.5点、レポート提出なし1点、レポート提出遅れ0.5点で減点を行い、5点以上減点となった場合に不合格となる。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

授業中に情報提供する。

参考書 / Reference Books

授業中に情報提供する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

授業中に情報提供する。

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class (Including Instructor Contact Information)

その他 / Others

拡張項目

社会福祉援助技術演習 I (SE) § 社会福祉援助技術演習 (SE)

13219

担当者名 / Instructor 池添 素

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

この授業は、「社会福祉援助技術実習指導II」「社会福祉援助技術実習指導III」と連動して行う。現場実習の事前・事後学習と関連させながら、実習先での具体的な援助場面を想定した事例検討やロールプレー、援助のシミュレーション(アセスメント、計画)等による倫理・知識・技術の習得および自己覚知をめざす。前期には、相談援助の理念(価値)、原理原則、理論・モデル、概念、方法、技術を実践に適用する方法を学ぶ。後期は、実習体験の振り返りと事後学習を通して、前期に学んだことをより深く理解し、実践する力をつけるとともに、個別の事象や実践を一般化・普遍化できる力をつける。

到達目標 / Attainment Objectives

1. 理論やモデルに基づいて、実習先のサービス利用者(地域)の状況、ニーズ、可能性、必要な援助(介入)について説明することができる。
2. 実習先分野での援助のプロセスとその内容について説明できるとともに、援助を実践するための基本技能を身につけている。
3. 実習先分野で学んだ倫理・知識・技能を他の福祉分野のサービス利用者理解や実践に適用できる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本科目の履修にあたり、「社会福祉援助技術実習指導I」を前年度に履修しておかなければならない。また、本科目履修と同年度前期には「社会福祉援助技術現場実習指導II」「社会福祉援助技術演習III」を、夏期集中で「社会福祉援助技術現場実習」を、後期には「社会福祉援助技術現場実習指導III」を履修することが必要である。さらに、「社会福祉援助技術論」および「ソーシャルワーク論」および実習分野に関わる社会福祉士指定科目を履修していることが望まれる。

授業スケジュール / Course Schedule

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind 割合 / Percentage 評価基準等 / Grading Criteria etc.

平常点評価 100 % 演習への取り組み状況、レポート、毎週のミニレポートなどを総合的に評価する。

日常点評価は、評価基準に基づいて厳しく行う。欠席1回1点、遅刻0.5点、レポート提出なし1点、レポート提出遅れ0.5点で減点を行い、5点以上減点となった場合に不合格となる。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

授業中に情報提供する。

参考書 / Reference Books

授業中に情報提供する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

授業中に情報提供する。

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class (Including Instructor Contact Information)

その他 / Others

拡張項目

社会福祉援助技術演習Ⅱ (SA)

13013

担当者名 / Instructor 木村 泰子、峰島 厚

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

本演習は、集団指導ならびに個別指導による実技指導を通して、学生の現場実習における体験を一般化するとともに、3年生の演習・実習で学んだことを発展させて相談援助についてのより高度な知識・技能を習得することをめざすものである。したがって、「演習Ⅱ」は、これまでの実習・演習での各自の学びと体験を振り返り、社会福祉に関する知識を含め、それらを一般化することを試み、社会福祉士としての相談援助に必要な知識と技能を習得するための総合的な演習と位置づけている。

なお、この授業では、A, B, C, D の4人の教員が2クラスで各々7回ずつ授業を輪番方式で担当する

到達目標 / Attainment Objectives

1. 相談援助に関わる知識と技能を、文献および事例を通じ、その学びを深める。
2. 個別の問題状況とその背景にある社会構造や社会問題の両面から、相談援助の具体的方法を理解し、実践することの重要性を認識する。
3. 社会福祉実践の基礎的な理解に加え、これまでの実習・演習での個別の学びと体験を一般化し、実践を理論化することに取り組む。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業の概要と導入	
2	事例を通じた学び1-①	
3	事例を通じた学び1-②	
4	事例を通じた学び1-③	
5	事例を通じた学び1-④	
6	各福祉領域における社会福祉士の専門性と役割1-①	
7	各福祉領域における社会福祉士の専門性と役割1-②	
8	各福祉領域における社会福祉士の専門性と役割1-③	障害者福祉、障害者自立支援法、ソーシャルワークの原理、インテーク、アセスメント
9	事例を通じた学び2-①	
10	事例を通じた学び2-②	
11	事例を通じた学び2-③	
12	事例を通じた学び2-④	
13	各福祉領域における社会福祉士の専門性と役割2-①	
14	各福祉領域における社会福祉士の専門性と役割2-②	
15	各福祉領域における社会福祉士の専門性と役割2-③	高齢者福祉、介護保険制度、ソーシャルワークの原理、インテーク、アセスメント
後期1	授業の概要と導入	
2	事例を通じた学び3-①	
3	事例を通じた学び3-②	
4	事例を通じた学び3-③	
5	事例を通じた学び3-④	

6	各福祉領域における社会福祉士の専門性と役割3-①	
7	各福祉領域における社会福祉士の専門性と役割3-②	
8	各福祉領域における社会福祉士の専門性と役割3-③	低所得者、公的扶助、ソーシャルワークの原理、インテーク、アセスメント
9	事例を通じた学び4-①	
10	事例を通じた学び4-②	
11	事例を通じた学び4-③	
12	事例を通じた学び4-④	
13	各福祉領域における社会福祉士の専門性と役割4-①	
14	各福祉領域における社会福祉士の専門性と役割4-②	
15	各福祉領域における社会福祉士の専門性と役割4-③	児童福祉、家族福祉、ジェンダー、ソーシャルワークの原理、インテーク、アセスメント

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for PrivateStudy (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	演習への取り組み状況(出席、参加度)、コミュニケーションペーパー、レポートなどを総合的に評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

授業中に情報提供する。

参考書 / Reference Books

授業中に情報提供する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class (Including Instructor Contact Information)

その他 / Others

拡張項目

社会福祉援助技術演習Ⅱ (SB)

13014

担当者名 / Instructor 小川 栄二、福嶋 正人

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

本演習は、集団指導ならびに個別指導による実技指導を通して、学生の現場実習における体験を一般化するとともに、3年生の演習・実習で学んだことを発展させて相談援助についてのより高度な知識・技能を習得することをめざすものである。したがって、「演習Ⅱ」は、これまでの実習・演習での各自の学びと体験を振り返り、社会福祉に関する知識を含め、それらを一般化することを試み、社会福祉士としての相談援助に必要な知識と技能を習得するための総合的な演習と位置づけている。

なお、この授業では、A, B, C, D の4人の教員が2クラスで各々7回ずつ授業を輪番方式で担当する

到達目標 / Attainment Objectives

1. 相談援助に関わる知識と技能を、文献および事例を通じ、その学びを深める。
2. 個別の問題状況とその背景にある社会構造や社会問題の両面から、相談援助の具体的方法を理解し、実践することの重要性を認識する。
3. 社会福祉実践の基礎的な理解に加え、これまでの実習・演習での個別の学びと体験を一般化し、実践を理論化することに取り組む。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業の概要と導入	
2	事例を通じた学び1-①	
3	事例を通じた学び1-②	
4	事例を通じた学び1-③	
5	事例を通じた学び1-④	
6	各福祉領域における社会福祉士の専門性と役割1-①	
7	各福祉領域における社会福祉士の専門性と役割1-②	
8	各福祉領域における社会福祉士の専門性と役割1-③	障害者福祉、障害者自立支援法、ソーシャルワークの原理、インテーク、アセスメント
9	事例を通じた学び2-①	
10	事例を通じた学び2-②	
11	事例を通じた学び2-③	
12	事例を通じた学び2-④	
13	各福祉領域における社会福祉士の専門性と役割2-①	
14	各福祉領域における社会福祉士の専門性と役割2-②	
15	各福祉領域における社会福祉士の専門性と役割2-③	高齢者福祉、介護保険制度、ソーシャルワークの原理、インテーク、アセスメント
後期1	授業の概要と導入	
2	事例を通じた学び3-①	
3	事例を通じた学び3-②	
4	事例を通じた学び3-③	
5	事例を通じた学び3-④	

6	各福祉領域における社会福祉士の専門性と役割3-①	
7	各福祉領域における社会福祉士の専門性と役割3-②	
8	各福祉領域における社会福祉士の専門性と役割3-③	低所得者、公的扶助、ソーシャルワークの原理、インテーク、アセスメント
9	事例を通じた学び4-①	
10	事例を通じた学び4-②	
11	事例を通じた学び4-③	
12	事例を通じた学び4-④	
13	各福祉領域における社会福祉士の専門性と役割4-①	
14	各福祉領域における社会福祉士の専門性と役割4-②	
15	各福祉領域における社会福祉士の専門性と役割4-③	児童福祉、家族福祉、ジェンダー、ソーシャルワークの原理、インテーク、アセスメント

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for PrivateStudy (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	演習への取り組み状況(出席、参加度)、コミュニケーションペーパー、レポートなどを総合的に評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

授業中に情報提供する。

参考書 / Reference Books

授業中に情報提供する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class (Including Instructor Contact Information)

その他 / Others

拡張項目

社会福祉援助技術演習Ⅲ (SA)

12807

担当者名 / Instructor 秋葉 武

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

この授業では、社会福祉士に必要な基礎スキルの習得をめざす。コミュニケーションや専門的援助関係づくりなどすべての福祉分野に必要な基本的な知識・技能をグループ討議やロールプレイ等を通して学ぶ。また、事例を通して、福祉実践に関わる価値や理念、理論・モデル、概念、方法、技術を実践に適用する方法を学ぶ。

なお、この授業では、A、B、Cの3人の教員が3クラスで各々5回ずつ授業を担当するので、クラスによって授業スケジュールが異なる。

到達目標 / Attainment Objectives

1. 専門的援助関係づくりのための基本スキル(コミュニケーション、原理原則の適用)の重要性がわかり、習得の意欲をもっている。
2. 個別の問題状況とその背景にある社会構造や社会問題の両方を生態学的視点に基づいて理解することの重要性が認識できている。
3. 社会福祉実践の目的、内容、方法、プロセス、課題について基礎的な理解ができている。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

社会福祉援助技術実習指導IIは履修しておかねばならない。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	第1回 授業の概要と導入	
	第2回 事例(マクロレベル)の提示、地域についての理解	統計、地域特性、住民の生活実態、社会問題
	第3回 介入の目的と社会福祉士の役割・機能	国際ソーシャルワーカー連盟の定義、倫理綱領、理念、原理
	第4回 介入のプロセスと方法①	アセスメント
	第5回 介入のプロセスと方法②	計画の策定と実施、モニタリング、評価
	第6回 専門職の価値と自己覚知	
	第7回 専門的援助関係	
	第8回 コミュニケーション	
	第9回 面接技法	
	第10回 福祉実践の実際(ゲストスピーカー)	
	第11回 事例(ミクロレベル)の提示、利用者についての理解	発達、生活歴、環境との相互作用、社会問題
	第12回 介入の目的と社会福祉士の役割・機能	国際ソーシャルワーカー連盟の定義、倫理綱領、理念、原理
	第13回 介入のプロセスと方法①	アセスメント
	第14回 介入のプロセスと方法②	計画の作成と実施、モニタリング、評価
	第15回 授業の振り返りとまとめ	自己評価

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	演習への取り組み状況(出席、参加度)、コミュニケーションペーパー、レポートなどを総合的に評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

授業中に情報提供する。

参考書 / Reference Books

授業中に情報提供する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class (Including Instructor Contact Information)

その他 / Others

拡張項目

社会福祉援助技術演習Ⅲ (SB)

12808

担当者名 / Instructor 福嶋 正人

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

この授業では、社会福祉士に必要な基礎スキルの習得をめざす。コミュニケーションや専門的援助関係づくりなどすべての福祉分野に必要な基本的な知識・技能をグループ討議やロールプレイ等を通して学ぶ。また、事例を通して、福祉実践に関わる価値や理念、理論・モデル、概念、方法、技術を実践に適用する方法を学ぶ。なお、この授業では、A、B、Cの3人の教員が3クラスで各々5回ずつ授業を担当するので、クラスによって授業スケジュールが異なる。

到達目標 / Attainment Objectives

1. 専門的援助関係づくりのための基本スキル(コミュニケーション、原理原則の適用)の重要性がわかり、習得の意欲をもっている。2. 個別の問題状況とその背景にある社会構造や社会問題の両方を生態学的視点に基づいて理解することの重要性が認識できている。3. 社会福祉実践の目的、内容、方法、プロセス、課題について基礎的な理解ができています。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

社会福祉援助技術実習指導Ⅱは履修しておかねばならない。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	第1回 授業の概要と導入	
	第2回 事例(マクロレベル)の提示、地域についての理解	統計、地域特性、住民の生活実態、社会問題
	第3回 介入の目的と社会福祉士の役割・機能	国際ソーシャルワーカー連盟の定義、倫理綱領、理念、原理
	第4回 介入のプロセスと方法①	アセスメント
	第5回 介入のプロセスと方法②	計画の策定と実施、モニタリング、評価
	第6回 専門職の価値と自己覚知	
	第7回 専門的援助関係	
	第8回 コミュニケーション	
	第9回 面接技法	
	第10回 福祉実践の実際(ゲストスピーカー)	
	第11回 事例(ミクロレベル)の提示、利用者についての理解	発達、生活歴、環境との相互作用、社会問題
	第12回 介入の目的と社会福祉士の役割・機能	国際ソーシャルワーカー連盟の定義、倫理綱領、理念、原理
	第13回 介入のプロセスと方法①	アセスメント
	第14回 介入のプロセスと方法②	計画の作成と実施、モニタリング、評価
	第15回 授業の振り返りとまとめ	自己評価

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	演習への取り組み状況(出席、参加度)、コミュニケーションペーパー、レポートなどを総合的に評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

授業中に情報提供する。

参考書 / Reference Books

授業中に情報提供する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class (Including Instructor Contact Information)

その他 / Others

拡張項目

社会福祉援助技術演習Ⅲ (SC)

12809

担当者名 / Instructor 岡本 裕子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

この授業では、社会福祉士に必要な基礎スキルの習得をめざす。コミュニケーションや専門的援助関係づくりなどすべての福祉分野に必要な基本的な知識・技能をグループ討議やロールプレイ等を通して学ぶ。また、事例を通して、福祉実践に関わる価値や理念、理論・モデル、概念、方法、技術を実践に適用する方法を学ぶ。なお、この授業では、A、B、Cの3人の教員が3クラスで各々5回ずつ授業を担当するので、クラスによって授業スケジュールが異なる。

到達目標 / Attainment Objectives

1. 専門的援助関係づくりのための基本スキル(コミュニケーション、原理原則の適用)の重要性がわかり、習得の意欲をもっている。2. 個別の問題状況とその背景にある社会構造や社会問題の両方を生態学的視点に基づいて理解することの重要性が認識できている。3. 社会福祉実践の目的、内容、方法、プロセス、課題について基礎的な理解ができています。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

社会福祉援助技術実習指導Ⅱは履修しておかねばならない。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	第1回 授業の概要と導入	
	第2回 事例(マクロレベル)の提示、地域についての理解	統計、地域特性、住民の生活実態、社会問題
	第3回 介入の目的と社会福祉士の役割・機能	国際ソーシャルワーカー連盟の定義、倫理綱領、理念、原理
	第4回 介入のプロセスと方法①	アセスメント
	第5回 介入のプロセスと方法②	計画の策定と実施、モニタリング、評価
	第6回 専門職の価値と自己覚知	
	第7回 専門的援助関係	
	第8回 コミュニケーション	
	第9回 面接技法	
	第10回 福祉実践の実際(ゲストスピーカー)	
	第11回 事例(ミクロレベル)の提示、利用者についての理解	発達、生活歴、環境との相互作用、社会問題
	第12回 介入の目的と社会福祉士の役割・機能	国際ソーシャルワーカー連盟の定義、倫理綱領、理念、原理
	第13回 介入のプロセスと方法①	アセスメント
	第14回 介入のプロセスと方法②	計画の作成と実施、モニタリング、評価
	第15回 授業の振り返りとまとめ	自己評価

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	演習への取り組み状況(出席、参加度)、コミュニケーションペーパー、レポートなどを総合的に評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

授業中に情報提供する。

参考書 / Reference Books

授業中に情報提供する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class (Including Instructor Contact Information)

その他 / Others

拡張項目

社会福祉援助技術現場実習 (SA)

20472

担当者名 / Instructor 秋葉 武

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

「社会福祉援助技術実習指導I」を通して配属される施設・機関において、180時間以上の現場実習を行う。そのねらいは、①現場実習を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実際に理解し実践的な技術等を体得する、②社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する、③関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解することである。履修者は実習中、実習受け入れ施設の実習指導者の指導の下で「社会福祉援助技術実習指導II」で作成した実習計画にそって課題に取り組む。また、本学の実習担当教員が実習施設を訪問して行う巡回指導および実習生が大学で行われる帰校日指導をうけて実習をより充実したものとする。

到達目標 / Attainment Objectives

1. 人や地域が直面している問題について、個別の状況を理解するとともに、それらの社会背景や関連要因について把握し、社会問題としての理解できる。
2. 福祉サービスを提供する機関や施設の役割、位置づけ、業務内容、サービス提供の方法、組織及び分野の課題について具体的に理解している。
3. 社会福祉士に必要とされる知識、技術、倫理について具体的かつ実際に理解し、基礎的な実践力を習得している。
4. 自己についての気づきが増え、社会福祉士となるために、今度、取り組むべき課題が明確である。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本科目履修のためには、前年度に「社会福祉援助技術実習指導I」を履修しておかなければならない。また、「社会福祉援助技術実習指導II」「社会福祉援助技術実習指導III」「社会福祉援助技術演習I」「社会福祉援助技術演習III」は同年度に履修しなければならない。さらに、「社会福祉援助技術論」、「ソーシャルワーク論」、実習先の分野に関わる社会福祉士指定科目を履修しておくことが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	社会福祉援助技術現場実習の実践経過と成果によって評価を行う。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class (Including Instructor Contact Information)

その他 / Others

拡張項目

社会福祉援助技術現場実習 (SB)

20470

担当者名 / Instructor 福嶋 正人

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

「社会福祉援助技術実習指導I」を通して配属される施設・機関において、180時間以上の現場実習を行う。そのねらいは、①現場実習を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実際に理解し実践的な技術等を体得する、②社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する、③関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解することである。履修者は実習中、実習受け入れ施設の実習指導者の指導の下で「社会福祉援助技術実習指導II」で作成した実習計画にそって課題に取り組む。また、本学の実習担当教員が実習施設を訪問して行う巡回指導および実習生が大学で行われる帰校日指導をうけて実習をより充実したものとする。

到達目標 / Attainment Objectives

1. 人や地域が直面している問題について、個別の状況を理解するとともに、それらの社会背景や関連要因について把握し、社会問題としての理解できる。2. 福祉サービスを提供する機関や施設の役割、位置づけ、業務内容、サービス提供の方法、組織及び分野の課題について具体的に理解している。3. 社会福祉士に必要とされる知識、技術、倫理について具体的かつ実際に理解し、基礎的な実践力を習得している。4. 自己についての気づきが増え、社会福祉士となるために、今度、取り組むべき課題が明確である。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本科目履修のためには、前年度に「社会福祉援助技術実習指導I」を履修しておかなければならない。また、「社会福祉援助技術実習指導II」「社会福祉援助技術実習指導III」「社会福祉援助技術演習I」「社会福祉援助技術演習II」「社会福祉援助技術演習III」は同年度に履修しなければならない。さらに、「社会福祉援助技術論」、「ソーシャルワーク論」、実習先の分野に関わる社会福祉士指定科目を履修しておくことが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	社会福祉援助技術現場実習の実践経過と成果によって評価を行う。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class (Including Instructor Contact Information)

その他 / Others

拡張項目

社会福祉援助技術現場実習 (SC)

20473

担当者名 / Instructor 櫻谷 真理子

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

「社会福祉援助技術実習指導I」を通して配属される施設・機関において、180時間以上の現場実習を行う。そのねらいは、①現場実習を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実際に理解し実践的な技術等を体得する、②社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する、③関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解することである。履修者は実習中、実習受け入れ施設の実習指導者の指導の下で「社会福祉援助技術実習指導II」で作成した実習計画にそって課題に取り組む。また、本学の実習担当教員が実習施設を訪問して行う巡回指導および実習生が大学で行われる帰校日指導をうけて実習をより充実したものとする。

到達目標 / Attainment Objectives

1. 人や地域が直面している問題について、個別の状況を理解するとともに、それらの社会背景や関連要因について把握し、社会問題としての理解できる。2. 福祉サービスを提供する機関や施設の役割、位置づけ、業務内容、サービス提供の方法、組織及び分野の課題について具体的に理解している。3. 社会福祉士に必要とされる知識、技術、倫理について具体的かつ実際に理解し、基礎的な実践力を習得している。4. 自己についての気づきが増え、社会福祉士となるために、今度、取り組むべき課題が明確である。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本科目履修のためには、前年度に「社会福祉援助技術実習指導I」を履修しておかなければならない。また、「社会福祉援助技術実習指導II」「社会福祉援助技術実習指導III」「社会福祉援助技術演習I」「社会福祉援助技術演習II」「社会福祉援助技術演習III」は同年度に履修しなければならない。さらに、「社会福祉援助技術論」、「ソーシャルワーク論」、実習先の分野に関わる社会福祉士指定科目を履修しておくことが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	社会福祉援助技術現場実習の実践経過と成果によって評価を行う。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class (Including Instructor Contact Information)

その他 / Others

拡張項目

社会福祉援助技術現場実習 (SD)

20474

担当者名 / Instructor 岡本 裕子

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

「社会福祉援助技術実習指導I」を通して配属される施設・機関において、180時間以上の現場実習を行う。そのねらいは、①現場実習を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実際に理解し実践的な技術等を体得する、②社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する、③関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解することである。履修者は実習中、実習受け入れ施設の実習指導者の指導の下で「社会福祉援助技術実習指導II」で作成した実習計画にそって課題に取り組む。また、本学の実習担当教員が実習施設を訪問して行う巡回指導および実習生が大学で行われる帰校日指導をうけて実習をより充実したものとする。

到達目標 / Attainment Objectives

1. 人や地域が直面している問題について、個別の状況を理解するとともに、それらの社会背景や関連要因について把握し、社会問題としての理解できる。2. 福祉サービスを提供する機関や施設の役割、位置づけ、業務内容、サービス提供の方法、組織及び分野の課題について具体的に理解している。3. 社会福祉士に必要とされる知識、技術、倫理について具体的かつ実際に理解し、基礎的な実践力を習得している。4. 自己についての気づきが増え、社会福祉士となるために、今度、取り組むべき課題が明確である。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本科目履修のためには、前年度に「社会福祉援助技術実習指導I」を履修しておかなければならない。また、「社会福祉援助技術実習指導II」「社会福祉援助技術実習指導III」「社会福祉援助技術演習I」「社会福祉援助技術演習II」は同年度に履修しなければならない。さらに、「社会福祉援助技術論」、「ソーシャルワーク論」、実習先の分野に関わる社会福祉士指定科目を履修しておくことが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	社会福祉援助技術現場実習の実践経過と成果によって評価を行う。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class (Including Instructor Contact Information)

その他 / Others

拡張項目

社会福祉援助技術現場実習 (SE)

20475

担当者名 / Instructor 岡本 裕子

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

「社会福祉援助技術実習指導I」を通して配属される施設・機関において、180時間以上の現場実習を行う。そのねらいは、①現場実習を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実際に理解し実践的な技術等を体得する、②社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する、③関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解することである。履修者は実習中、実習受け入れ施設の実習指導者の指導の下で「社会福祉援助技術実習指導II」で作成した実習計画にそって課題に取り組む。また、本学の実習担当教員が実習施設を訪問して行う巡回指導および実習生が大学で行われる帰校日指導をうけて実習をより充実したものとする。

到達目標 / Attainment Objectives

1. 人や地域が直面している問題について、個別の状況を理解するとともに、それらの社会背景や関連要因について把握し、社会問題としての理解できる。2. 福祉サービスを提供する機関や施設の役割、位置づけ、業務内容、サービス提供の方法、組織及び分野の課題について具体的に理解している。3. 社会福祉士に必要とされる知識、技術、倫理について具体的かつ実際に理解し、基礎的な実践力を習得している。4. 自己についての気づきが増え、社会福祉士となるために、今度、取り組むべき課題が明確である。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本科目履修のためには、前年度に「社会福祉援助技術実習指導I」を履修しておかなければならない。また、「社会福祉援助技術実習指導II」「社会福祉援助技術実習指導III」「社会福祉援助技術演習I」「社会福祉援助技術演習II」「社会福祉援助技術演習III」は同年度に履修しなければならない。さらに、「社会福祉援助技術論」、「ソーシャルワーク論」、実習先の分野に関わる社会福祉士指定科目を履修しておくことが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	社会福祉援助技術現場実習の実践経過と成果によって評価を行う。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class (Including Instructor Contact Information)

その他 / Others

拡張項目

社会福祉援助技術実習指導 I (SA)

12868

担当者名 / Instructor 丸山 里美

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

この科目は、社会福祉士課程の実習関連科目の一つで、福祉現場での実習を行うための導入科目である。本科目では、第一に、実習とはどのようなものかを理解し、実習に際して何が重要か認識できるようにする。第二に、社会福祉のさまざまな分野・領域について概観し、福祉現場とサービス利用者(潜在的利用者)の実態や課題について学ぶ。第三に、実習に向けて受講生各自が問題意識を整理し、自己理解を深めるとともに、実習を行う領域と実習種別を決める。福祉の現場と実践について現実的な認識を深めるために、授業には、演習、福祉専門職や実習経験者らゲストスピーカーの講義、施設訪問など多様な学習方法を取り入れる。

到達目標 / Attainment Objectives

1. 社会福祉援助技術現場実習の目的と概要について理解したうえで、自分自身にとっての実習の意義を明確に述べることができる。
2. 福祉実践の現場と利用者の状況についての現実的な基礎知識をもち、3年次の現場実習にむけて、さらに何を学ぶべきかがわかる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

社会福祉士課程の指定科目をできるだけ履修することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	第1回 授業の概要と導入	授業スケジュール、学習方法、レポート、施設見学、実習先選定のプロセスと方法
	第2回 支援すること・支援をうけること(体験学習)	
	第3回 社会福祉実践及び社会福祉士とは	倫理綱領、自己覚知(ワークショップ)
	第4回 行政機関とその福祉サービス①(福祉事務所からゲストスピーカー)	
	第5回 行政機関とその福祉サービス②(振り返りとまとめ)	
	第6回 地域福祉分野①(社会福祉協議会からのゲストスピーカー)	
	第7回 地域福祉分野②(振り返りとまとめ)	
	第8回 児童福祉分野①(児童相談所からゲストスピーカー)	
	第9回 児童福祉分野②(振り返りとまとめ)	
	第10回 高齢者福祉分野(施設見学の報告とまとめ)	
	第11回 障害者福祉分野(施設見学の報告とまとめ)	
	第12回 2011年度実習生による報告(児童・高齢)	
	第13回 2011年度実習生による報告(障害・地域)	
	第14回 実習に関連する心配・不安・気がかり等とそれらへの対処法	
	第15回 振り返りと今後の課題	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

高齢者施設および障害(児)者施設への見学は、事前に見学計画書を作成し担当教員の指導を受けたいうえで、授業時間外にグループ単位で行う。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	毎回の授業への取り組み状況(出席、参加度)、コミュニケーションペーパー、施設見学の計画

書および報告、分野別レポート等を総合的に評価する。

日常点評価は、評価基準に基づいて厳しく行う。

欠席1回1点、遅刻0.5点、レポート提出なし1点、レポート提出遅れ0.5点で減点を行い、5点以上減点となった場合に不合格となる。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

授業中に参考になる文献・雑誌等については情報提供する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

授業中に情報提供する。

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class (Including Instructor Contact Information)

その他 / Others

拡張項目

社会福祉援助技術実習指導 I (SB)

12869

担当者名 / Instructor 岡本 裕子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

この科目は、社会福祉士課程の実習関連科目の一つで、福祉現場での実習を行うための導入科目である。本科目では、第一に、実習とはどのようなものかを理解し、実習に際して何が重要か認識できるようにする。第二に、社会福祉のさまざまな分野・領域について概観し、福祉現場とサービス利用者(潜在的利用者)の実態や課題について学ぶ。第三に、実習に向けて受講生各自が問題意識を整理し、自己理解を深めるとともに、実習を行う領域と実習種別を決める。福祉の現場と実践について現実的な認識を深めるために、授業には、演習、福祉専門職や実習経験者らゲストスピーカーの講義、施設訪問など多様な学習方法を取り入れる。

到達目標 / Attainment Objectives

1. 社会福祉援助技術現場実習の目的と概要について理解したうえで、自分自身にとっての実習の意義を明確に述べることができる。
2. 福祉実践の現場と利用者の状況についての現実的な基礎知識をもち、3年次の現場実習にむけて、さらに何を学ぶべきかがわかる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

社会福祉士課程の指定科目をできるだけ履修することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	第1回 授業の概要と導入	授業スケジュール、学習方法、レポート、施設見学、実習先選定のプロセスと方法
	第2回 支援すること・支援をうけること(体験学習)	
	第3回 社会福祉実践及び社会福祉士とは	倫理綱領、自己覚知(ワークショップ)
	第4回 行政機関とその福祉サービス①(福祉事務所からゲストスピーカー)	
	第5回 行政機関とその福祉サービス②(振り返りとまとめ)	
	第6回 地域福祉分野①(社会福祉協議会からのゲストスピーカー)	
	第7回 地域福祉分野②(振り返りとまとめ)	
	第8回 児童福祉分野①(児童相談所からゲストスピーカー)	
	第9回 児童福祉分野②(振り返りとまとめ)	
	第10回 高齢者福祉分野(施設見学の報告とまとめ)	
	第11回 障害者福祉分野(施設見学の報告とまとめ)	
	第12回 2011年度実習生による報告(児童・高齢)	
	第13回 2011年度実習生による報告(障害・地域)	
	第14回 実習に関連する心配・不安・気がかり等とそれらへの対処法	
	第15回 振り返りと今後の課題	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

高齢者施設および障害(児)者施設への見学は、事前に見学計画書を作成し担当教員の指導を受けたいうえで、授業時間外にグループ単位で行う。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	毎回の授業への取り組み状況(出席、参加度)、コミュニケーションペーパー、施設見学の計画

書および報告、分野別レポート等を総合的に評価する。

日常点評価は、評価基準に基づいて厳しく行う。

欠席1回1点、遅刻0.5点、レポート提出なし1点、レポート提出遅れ0.5点で減点を行い、5点以上減点となった場合に不合格となる。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

授業中に参考になる文献・雑誌等については情報提供する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

授業中に情報提供する。

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class (Including Instructor Contact Information)

その他 / Others

拡張項目

社会福祉援助技術実習指導 I (SC)

12870

担当者名 / Instructor 西村 清忠

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

この科目は、社会福祉士課程の実習関連科目の一つで、福祉現場での実習を行うための導入科目である。本科目では、第一に、実習とはどのようなものかを理解し、実習に際して何が重要か認識できるようにする。第二に、社会福祉のさまざまな分野・領域について概観し、福祉現場とサービス利用者(潜在的利用者)の実態や課題について学ぶ。第三に、実習に向けて受講生各自が問題意識を整理し、自己理解を深めるとともに、実習を行う領域と実習種別を決める。福祉の現場と実践について現実的な認識を深めるために、授業には、演習、福祉専門職や実習経験者らゲストスピーカーの講義、施設訪問など多様な学習方法を取り入れる。

到達目標 / Attainment Objectives

1. 社会福祉援助技術現場実習の目的と概要について理解したうえで、自分自身にとっての実習の意義を明確に述べることができる。
2. 福祉実践の現場と利用者の状況についての現実的な基礎知識をもち、3年次の現場実習にむけて、さらに何を学ぶべきかがわかる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

社会福祉士課程の指定科目をできるだけ履修することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	第1回 授業の概要と導入	授業スケジュール、学習方法、レポート、施設見学、実習先選定のプロセスと方法
	第2回 支援すること・支援をうけること(体験学習)	
	第3回 社会福祉実践及び社会福祉士とは	倫理綱領、自己覚知(ワークショップ)
	第4回 行政機関とその福祉サービス①(福祉事務所からゲストスピーカー)	
	第5回 行政機関とその福祉サービス②(振り返りとまとめ)	
	第6回 地域福祉分野①(社会福祉協議会からのゲストスピーカー)	
	第7回 地域福祉分野②(振り返りとまとめ)	
	第8回 児童福祉分野①(児童相談所からゲストスピーカー)	
	第9回 児童福祉分野②(振り返りとまとめ)	
	第10回 高齢者福祉分野(施設見学の報告とまとめ)	
	第11回 障害者福祉分野(施設見学の報告とまとめ)	
	第12回 2011年度実習生による報告(児童・高齢)	
	第13回 2011年度実習生による報告(障害・地域)	
	第14回 実習に関連する心配・不安・気がかり等とそれらへの対処法	
	第15回 振り返りと今後の課題	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

高齢者施設および障害(児)者施設への見学は、事前に見学計画書を作成し担当教員の指導を受けたいうえで、授業時間外にグループ単位で行う。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	毎回の授業への取り組み状況(出席、参加度)、コミュニケーションペーパー、施設見学の計画

書および報告、分野別レポート等を総合的に評価する。

日常点評価は、評価基準に基づいて厳しく行う。

欠席1回1点、遅刻0.5点、レポート提出なし1点、レポート提出遅れ0.5点で減点を行い、5点以上減点となった場合に不合格となる。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

授業中に参考になる文献・雑誌等については情報提供する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

授業中に情報提供する。

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class (Including Instructor Contact Information)

その他 / Others

拡張項目

社会福祉援助技術実習指導 I (SD)

12292

担当者名 / Instructor 水谷 祥子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

この科目は、精神保健福祉士課程の実習関連科目の一つで、福祉現場での実習を行うための導入科目である。本科目では、第一に、実習とはどのようなものかを理解し、実習に際して何が重要か認識できるようにする。第二に、社会福祉のさまざまな分野・領域について概観し、福祉現場とサービス利用者(潜在的利用者)の実態や課題について学ぶ。第三に、実習に向けて受講生各自が問題意識を整理し、自己理解を深めるとともに、実習を行う領域と実習種別を決める。福祉の現場と実践について現実的な認識を深めるために、授業には、演習、福祉専門職や実習経験者らゲストスピーカーの講義、施設訪問など多様な学習方法を取り入れる。

到達目標 / Attainment Objectives

1. 精神保健福祉援助技術現場実習の目的と概要について理解したうえで、自分自身にとっての実習の意義を明確に述べることができる。2. 福祉実践の現場と利用者の状況についての現実的な基礎知識をもち、3年次の現場実習にむけて、さらに何を学ぶべきかがわかる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

精神保健福祉士課程の指定科目をできるだけ履修することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業の概要と導入	授業スケジュール、学習方法、施設見学、実習先選定のプロセスと方法、自己覚知
第2回	精神に障害がある人を理解する	
第3回	精神保健福祉実践および精神保健福祉士の役割	倫理綱領
第4回	生活支援のための社会資源	
第5回	精神科医療機関に関する基礎的理解	
第6回	精神科医療と医療・保健・福祉サービスについて(ゲストスピーカー)	
第7回	地域生活支援施設に関する基礎的理解	
第8回	地域生活支援施設における福祉サービス(ゲストスピーカー)	
第9回	精神保健福祉実践に関する理解①援助課程	
第10回	精神保健福祉実践に関する理解②セルフヘルプグループ	
第11回	精神保健福祉分野について(施設見学の報告)	
第12回	精神保健福祉実践に関する理解③介護保険サービス	
第13回	精神保健福祉実践に関する理解④わが町の社会資源	
第14回	精神保健福祉における権利擁護	
第15回	振り返りと今後の課題、実習に関連する心配・不安・気がかり等とそれらへの対処法	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

施設見学は、事前に見学計画書を作成し担当教員の指導を受けたいうえで、授業時間外にグループ単位で行う。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	毎回の授業への取り組み状況(出席、参加度)、レポート、小テスト等を総合的に評価する。

日常点評価は、授業への出席、演習への参加、施設見学、レポート、授業内小テスト等に基づいて行う。欠席1回1点、遅刻0.5点、レポート提出なし1点、レポート提出遅れ0.5点で減点を行い、5点以上減点となった場合に不合格となる。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

授業中に参考になる文献・雑誌等については情報提供する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

授業中に情報提供する。

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class (Including Instructor Contact Information)

その他 / Others

拡張項目

社会福祉援助技術実習指導Ⅱ (SA)

13297

担当者名 / Instructor 櫻谷 真理子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

この授業では、「社会福祉援助技術演習Ⅰ」と連動して、「社会福祉援助技術現場実習」が充実したものとなるように事前の準備を行う。実習の目的と意義を再確認し、実習計画をたてて実習に積極的に取り組めるようにする。また、実習中の学びをより深いものにするために、実習施設・機関、利用者、福祉実践の理念や方法についての事前学習を行う。講義のほか、演習活動、グループ学習と報告、ゲストスピーカーによる講義、施設訪問など多彩な内容である。

到達目標 / Attainment Objectives

1. 現場実習の意義と目的、あり方について理解している。
2. 実習分野のサービス利用者(潜在的利用者を含む)とその社会環境、福祉施設・機関、関連する法制度、社会福祉士の役割と業務についての基本的な知識をもっている。
3. 自分の思考・行動パターンや性格傾向への気づきを得るとともに、人と関わる基本的な技法を身につけている。
4. 上記3点を踏まえた実習計画が完成し、現場実習にむけての実務的かつ心の準備ができています。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本科目の履修にあたり、「社会福祉援助技術実習指導Ⅰ」を前年度に履修しておかなければならない。また、同年度に「社会福祉援助技術演習Ⅰ」と「社会福祉援助技術実習指導Ⅲ」を履修することが必要である。さらに、「社会福祉援助技術論」「ソーシャルワーク論」および実習分野に関わる社会福祉士指定科目を履修していることが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	第1回 授業の概要と導入	
	第2回 事前学習①	
	第3回 事前学習②	
	第4回 事前学習③	
	第5回 事前学習④	
	第6回 事前学習⑤	
	第7回 実習計画①	
	第8回 実習計画②	
	第9回 実習計画③	
	第10回 実習懇談会	
	第11回 実習計画④	
	第12回 事前学習⑤	
	第13回 実習直前準備①	
	第14回 実習直前準備②	
	第15回 実習直前準備③	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

実習受け入れ施設に事前訪問してオリエンテーションをうけ実習計画の協議をすることが望ましい(施設側の指示に従うこと)。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	毎回の授業への取り組み状況(出席、参加度)、毎授業で課される講義や討論等の内容をまと

めるミニレポート、実習計画書等を総合的に評価する。

日常点評価は、評価基準に基づいて厳しく行う。

欠席1回1点、遅刻0.5点、レポート提出なし1点、レポート提出遅れ0.5点で減点を行い、5点以上減点となった場合に不合格となる。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

授業中に情報提供する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

授業中に情報提供する。

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class (Including Instructor Contact Information)

その他 / Others

拡張項目

社会福祉援助技術実習指導Ⅱ (SB)

13298

担当者名 / Instructor 岡本 裕子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

この授業では、「社会福祉援助技術演習Ⅰ」と連動して、「社会福祉援助技術現場実習」が充実したものとなるように事前の準備を行う。実習の目的と意義を再確認し、実習計画をたてて実習に積極的に取り組めるようにする。また、実習中の学びをより深いものにするために、実習施設・機関、利用者、福祉実践の理念や方法についての事前学習を行う。講義のほか、演習活動、グループ学習と報告、ゲストスピーカーによる講義、施設訪問など多彩な内容である。

到達目標 / Attainment Objectives

1. 現場実習の意義と目的、あり方について理解している。2. 実習分野のサービス利用者(潜在的利用者を含む)とその社会環境、福祉施設・機関、関連する法制度、社会福祉士の役割と業務についての基本的な知識をもっている。3. 自分の思考・行動パターンや性格傾向への気づきを得るとともに、人と関わる基本的な技法を身につけている。4. 上記3点を踏まえた実習計画が完成し、現場実習にむけての実務的かつ心の準備ができています。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本科目の履修にあたり、「社会福祉援助技術実習指導Ⅰ」を前年度に履修しておかなければならない。また、同年度に「社会福祉援助技術演習Ⅰ」と「社会福祉援助技術実習指導Ⅲ」を履修することが必要である。さらに、「社会福祉援助技術論」「ソーシャルワーク論」および実習分野に関わる社会福祉士指定科目を履修していることが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	第1回 授業の概要と導入	
	第2回 事前学習①	
	第3回 事前学習②	
	第4回 事前学習③	
	第5回 事前学習④	
	第6回 事前学習⑤	
	第7回 実習計画①	
	第8回 実習計画②	
	第9回 実習計画③	
	第10回 実習懇談会	
	第11回 実習計画④	
	第12回 事前学習⑤	
	第13回 実習直前準備①	
	第14回 実習直前準備②	
	第15回 実習直前準備③	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

実習受け入れ施設に事前訪問してオリエンテーションをうけ実習計画の協議をすることが望ましい(施設側の指示に従うこと)。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	毎回の授業への取り組み状況(出席、参加度)、毎授業で課される講義や討論等の内容をまとめるミニレポート、実習計画書等を総合的に評価する。

日常点評価は、評価基準に基づいて厳しく行う。欠席1回1点、遅刻0.5点、レポート提出なし1点、レポート提出遅れ0.5点で減点を行い、5点以上減点となった場合に不合格となる。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

授業中に情報提供する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

授業中に情報提供する。

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class (Including Instructor Contact Information)

その他 / Others

拡張項目

社会福祉援助技術実習指導Ⅱ (SC)

13299

担当者名 / Instructor 廣末 利弥

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

この授業では、「社会福祉援助技術演習Ⅰ」と連動して、「社会福祉援助技術現場実習」が充実したものとなるように事前の準備を行う。実習の目的と意義を再確認し、実習計画をたてて実習に積極的に取り組めるようにする。また、実習中の学びをより深いものにするために、実習施設・機関、利用者、福祉実践の理念や方法についての事前学習を行う。講義のほか、演習活動、グループ学習と報告、ゲストスピーカーによる講義、施設訪問など多彩な内容である。

到達目標 / Attainment Objectives

1. 現場実習の意義と目的、あり方について理解している。2. 実習分野のサービス利用者(潜在的利用者を含む)とその社会環境、福祉施設・機関、関連する法制度、社会福祉士の役割と業務についての基本的な知識をもっている。3. 自分の思考・行動パターンや性格傾向への気づきを得るとともに、人と関わる基本的な技法を身につけている。4. 上記3点を踏まえた実習計画が完成し、現場実習にむけての実務的かつ心の準備ができています。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本科目の履修にあたり、「社会福祉援助技術実習指導Ⅰ」を前年度に履修しておかなければならない。また、同年度に「社会福祉援助技術演習Ⅰ」と「社会福祉援助技術実習指導Ⅲ」を履修することが必要である。さらに、「社会福祉援助技術論」「ソーシャルワーク論」および実習分野に関わる社会福祉士指定科目を履修していることが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	第1回 授業の概要と導入	
	第2回 事前学習①	
	第3回 事前学習②	
	第4回 事前学習③	
	第5回 事前学習④	
	第6回 事前学習⑤	
	第7回 実習計画①	
	第8回 実習計画②	
	第9回 実習計画③	
	第10回 実習懇談会	
	第11回 実習計画④	
	第12回 事前学習⑤	
	第13回 実習直前準備①	
	第14回 実習直前準備②	
	第15回 実習直前準備③	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

実習受け入れ施設に事前訪問してオリエンテーションをうけ実習計画の協議をすることが望ましい(施設側の指示に従うこと)。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	毎回の授業への取り組み状況(出席、参加度)、毎授業で課される講義や討論等の内容をまとめるミニレポート、実習計画書等を総合的に評価する。

日常点評価は、評価基準に基づいて厳しく行う。欠席1回1点、遅刻0.5点、レポート提出なし1点、レポート提出遅れ0.5点で減点を行い、5点以上減点となった場合に不合格となる。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

授業中に情報提供する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

授業中に情報提供する。

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class (Including Instructor Contact Information)

その他 / Others

拡張項目

社会福祉援助技術実習指導Ⅱ (SD)

13300

担当者名 / Instructor 山田 尋志

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

この授業では、「社会福祉援助技術演習Ⅰ」と連動して、「社会福祉援助技術現場実習」が充実したものとなるように事前の準備を行う。実習の目的と意義を再確認し、実習計画をたてて実習に積極的に取り組めるようにする。また、実習中の学びをより深いものにするために、実習施設・機関、利用者、福祉実践の理念や方法についての事前学習を行う。講義のほか、演習活動、グループ学習と報告、ゲストスピーカーによる講義、施設訪問など多彩な内容である。

到達目標 / Attainment Objectives

1. 現場実習の意義と目的、あり方について理解している。2. 実習分野のサービス利用者(潜在的利用者を含む)とその社会環境、福祉施設・機関、関連する法制度、社会福祉士の役割と業務についての基本的な知識をもっている。3. 自分の思考・行動パターンや性格傾向への気づきを得るとともに、人と関わる基本的な技法を身につけている。4. 上記3点を踏まえた実習計画が完成し、現場実習にむけての実務的かつ心の準備ができています。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本科目の履修にあたり、「社会福祉援助技術実習指導Ⅰ」を前年度に履修しておかなければならない。また、同年度に「社会福祉援助技術演習Ⅰ」と「社会福祉援助技術実習指導Ⅲ」を履修することが必要である。さらに、「社会福祉援助技術論」「ソーシャルワーク論」および実習分野に関わる社会福祉士指定科目を履修していることが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	第1回 授業の概要と導入	
	第2回 事前学習①	
	第3回 事前学習②	
	第4回 事前学習③	
	第5回 事前学習④	
	第6回 事前学習⑤	
	第7回 実習計画①	
	第8回 実習計画②	
	第9回 実習計画③	
	第10回 実習懇談会	
	第11回 実習計画④	
	第12回 事前学習⑤	
	第13回 実習直前準備①	
	第14回 実習直前準備②	
	第15回 実習直前準備③	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

実習受け入れ施設に事前訪問してオリエンテーションをうけ実習計画の協議をすることが望ましい(施設側の指示に従うこと)。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	毎回の授業への取り組み状況(出席、参加度)、毎授業で課される講義や討論等の内容をまとめるミニレポート、実習計画書等を総合的に評価する。

日常点評価は、評価基準に基づいて厳しく行う。欠席1回1点、遅刻0.5点、レポート提出なし1点、レポート提出遅れ0.5点で減点を行い、5点以上減点となった場合に不合格となる。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

授業中に情報提供する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

授業中に情報提供する。

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class (Including Instructor Contact Information)

その他 / Others

拡張項目

社会福祉援助技術実習指導Ⅱ (SE)

13301

担当者名 / Instructor 池添 素

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

この授業では、「社会福祉援助技術演習Ⅰ」と連動して、「社会福祉援助技術現場実習」が充実したものとなるように事前の準備を行う。実習の目的と意義を再確認し、実習計画をたてて実習に積極的に取り組めるようにする。また、実習中の学びをより深いものにするために、実習施設・機関、利用者、福祉実践の理念や方法についての事前学習を行う。講義のほか、演習活動、グループ学習と報告、ゲストスピーカーによる講義、施設訪問など多彩な内容である。

到達目標 / Attainment Objectives

1. 現場実習の意義と目的、あり方について理解している。2. 実習分野のサービス利用者(潜在的利用者を含む)とその社会環境、福祉施設・機関、関連する法制度、社会福祉士の役割と業務についての基本的な知識をもっている。3. 自分の思考・行動パターンや性格傾向への気づきを得るとともに、人と関わる基本的な技法を身につけている。4. 上記3点を踏まえた実習計画が完成し、現場実習にむけての実務的かつ心の準備ができています。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本科目の履修にあたり、「社会福祉援助技術実習指導Ⅰ」を前年度に履修しておかなければならない。また、同年度に「社会福祉援助技術演習Ⅰ」と「社会福祉援助技術実習指導Ⅲ」を履修することが必要である。さらに、「社会福祉援助技術論」「ソーシャルワーク論」および実習分野に関わる社会福祉士指定科目を履修していることが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	第1回 授業の概要と導入	
	第2回 事前学習①	
	第3回 事前学習②	
	第4回 事前学習③	
	第5回 事前学習④	
	第6回 事前学習⑤	
	第7回 実習計画①	
	第8回 実習計画②	
	第9回 実習計画③	
	第10回 実習懇談会	
	第11回 実習計画④	
	第12回 事前学習⑤	
	第13回 実習直前準備①	
	第14回 実習直前準備②	
	第15回 実習直前準備③	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

実習受け入れ施設に事前訪問してオリエンテーションをうけ実習計画の協議をすることが望ましい(施設側の指示に従うこと)。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	毎回の授業への取り組み状況(出席、参加度)、毎授業で課される講義や討論等の内容をまとめるミニレポート、実習計画書等を総合的に評価する。

日常点評価は、評価基準に基づいて厳しく行う。欠席1回1点、遅刻0.5点、レポート提出なし1点、レポート提出遅れ0.5点で減点を行い、5点以上減点となった場合に不合格となる。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

授業中に情報提供する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

授業中に情報提供する。

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class (Including Instructor Contact Information)

その他 / Others

拡張項目

社会福祉援助技術実習指導Ⅲ (SA)

13313

担当者名 / Instructor 櫻谷 真理子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

この授業は、「社会福祉援助技術演習」と連動しており、「社会福祉援助技術現場実習」の事後学習として位置づけられる。各自が実習の内容とそこで学んだことについてクラスで報告し、他の受講生と教員からのフィードバックを得て振り返りを行うなかで、問題についての理解を深め、自分自身への気づきを得る場とする。実習中に感じた疑問や新たに気づいた問題についての学習も行う。また、実習全体を評価して、達成できたことを確認するとともに、今後の課題についても検討する。さらに、実習報告書『鞆』の作成と実習報告会を通して、実習の成果をまとめ、他の施設・機関や他分野で実習した人と学びを共有する。

到達目標 / Attainment Objectives

1. 福祉サービスの利用者や住民、地域を理論やモデルの基づいて理解し、問題の解決・予防、状況改善のための具体的な方法(福祉実践)を提案することができる。
2. 実習先分野で社会福祉士に求められる基本的スキルを身につけている。また今後、自分が取り組む課題を把握できている。
3. 個別の問題の背景にある社会構造や経緯についての理解を踏まえ、わが国の社会福祉制度・政策について長所と改善すべき点について述べるができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本科目の履修にあたり、「社会福祉援助技術実習指導Ⅲ」を前年度に履修すること、「社会福祉援助技術演習Ⅰ」「社会福祉援助技術実習指導Ⅱ」「社会福祉援助技術現場実習」を同年度に履修することが必要である。また「社会福祉援助技術論」「ソーシャルワーク論」および実習分野に関わる社会福祉士指定科目を履修していることが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	第1回 授業の概要と導入	
	第2回 実習の振り返り	
	第3回 実習報告とグループスーパービジョン	
	第4回 実習報告とグループスーパービジョン	
	第5回 実習報告とグループスーパービジョン	
	第6回 実習報告とグループスーパービジョン	
	第7回 実習報告会準備、課題についての学習	
	第8回 実習報告会準備、課題についての学習	
	第9回 実習報告会準備、課題についての学習	
	第10回 実習報告書『鞆』作成準備	
	第11回 実習報告会①	
	第12回 実習報告会②	
	第13回 実習報告会の振り返りと補足	
	第14回 実習報告書『鞆』の見直し	
	第15回 実習の総括と今後の課題	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	日常的な授業における取組状況(出席、参加度)、実習報告の内容、実習報告会準備への参

画、実習報告書『轍』の内容を総合的に評価する。

日常点評価は、評価基準に基づいて厳しく行う。

欠席1回1点、遅刻0.5点、レポート提出なし1点、レポート提出遅れ0.5点で減点を行い、5点以上減点となった場合に不合格となる。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

授業中に情報提供する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

授業中に情報提供する。

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class (Including Instructor Contact Information)

その他 / Others

拡張項目

社会福祉援助技術実習指導Ⅲ (SB)

13314

担当者名 / Instructor 岡本 裕子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

この授業は、「社会福祉援助技術演習」と連動しており、「社会福祉援助技術現場実習」の事後学習として位置づけられる。各自が実習の内容とそこで学んだことについてクラスで報告し、他の受講生と教員からのフィードバックを得て振り返りを行うなかで、問題についての理解を深め、自分自身への気づきを得る場とする。実習中に感じた疑問や新たに気づいた問題についての学習も行う。また、実習全体を評価して、達成できたことを確認するとともに、今後の課題についても検討する。さらに、実習報告書『轍』の作成と実習報告会を通して、実習の成果をまとめ、他の施設・機関や他分野で実習した人と学びを共有する。

到達目標 / Attainment Objectives

1. 福祉サービスの利用者や住民、地域を理論やモデルの基づいて理解し、問題の解決・予防、状況改善のための具体的な方法(福祉実践)を提案することができる。2. 実習先分野で社会福祉士に求められる基本的スキルを身につけている。また今後、自分が取り組む課題を把握できている。3. 個別の問題の背景にある社会構造や経緯についての理解を踏まえ、わが国の社会福祉制度・政策について長所と改善すべき点について述べる事ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本科目の履修にあたり、「社会福祉援助技術実習指導Ⅲ」を前年度に履修すること、「社会福祉援助技術演習Ⅰ」「社会福祉援助技術実習指導Ⅱ」「社会福祉援助技術現場実習」を同年度に履修することが必要である。また「社会福祉援助技術論」「ソーシャルワーク論」および実習分野に関わる社会福祉士指定科目を履修していることが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	第1回 授業の概要と導入	
	第2回 実習の振り返り	
	第3回 実習報告とグループスーパービジョン	
	第4回 実習報告とグループスーパービジョン	
	第5回 実習報告とグループスーパービジョン	
	第6回 実習報告とグループスーパービジョン	
	第7回 実習報告会準備、課題についての学習	
	第8回 実習報告会準備、課題についての学習	
	第9回 実習報告会準備、課題についての学習	
	第10回 実習報告書『轍』作成準備	
	第11回 実習報告会①	
	第12回 実習報告会②	
	第13回 実習報告会の振り返りと補足	
	第14回 実習報告書『轍』の見直し	
	第15回 実習の総括と今後の課題	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	日常的な授業における取組状況(出席、参加度)、実習報告の内容、実習報告会準備への参画、実習報告書『轍』の内容を総合的に評価する。

日常点評価は、評価基準に基づいて厳しく行う。欠席1回1点、遅刻0.5点、レポート提出なし1点、レポート提出遅れ0.5点で減点を行い、5点以上減点となった場合に不合格となる。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

授業中に情報提供する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

授業中に情報提供する。

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class (Including Instructor Contact Information)

その他 / Others

拡張項目

社会福祉援助技術実習指導Ⅲ (SC)

13315

担当者名 / Instructor 廣末 利弥

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

この授業は、「社会福祉援助技術演習」と連動しており、「社会福祉援助技術現場実習」の事後学習として位置づけられる。各自が実習の内容とそこで学んだことについてクラスで報告し、他の受講生と教員からのフィードバックを得て振り返りを行うなかで、問題についての理解を深め、自分自身への気づきを得る場とする。実習中に感じた疑問や新たに気づいた問題についての学習も行う。また、実習全体を評価して、達成できたことを確認するとともに、今後の課題についても検討する。さらに、実習報告書『轍』の作成と実習報告会を通して、実習の成果をまとめ、他の施設・機関や他分野で実習した人と学びを共有する。

到達目標 / Attainment Objectives

1. 福祉サービスの利用者や住民、地域を理論やモデルの基づいて理解し、問題の解決・予防、状況改善のための具体的な方法(福祉実践)を提案することができる。2. 実習先分野で社会福祉士に求められる基本的スキルを身につけている。また今後、自分が取り組む課題を把握できている。3. 個別の問題の背景にある社会構造や経緯についての理解を踏まえ、わが国の社会福祉制度・政策について長所と改善すべき点について述べる事ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本科目の履修にあたり、「社会福祉援助技術実習指導Ⅲ」を前年度に履修すること、「社会福祉援助技術演習Ⅰ」「社会福祉援助技術実習指導Ⅱ」「社会福祉援助技術現場実習」を同年度に履修することが必要である。また「社会福祉援助技術論」「ソーシャルワーク論」および実習分野に関わる社会福祉士指定科目を履修していることが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	第1回 授業の概要と導入	
	第2回 実習の振り返り	
	第3回 実習報告とグループスーパービジョン	
	第4回 実習報告とグループスーパービジョン	
	第5回 実習報告とグループスーパービジョン	
	第6回 実習報告とグループスーパービジョン	
	第7回 実習報告会準備、課題についての学習	
	第8回 実習報告会準備、課題についての学習	
	第9回 実習報告会準備、課題についての学習	
	第10回 実習報告書『轍』作成準備	
	第11回 実習報告会①	
	第12回 実習報告会②	
	第13回 実習報告会の振り返りと補足	
	第14回 実習報告書『轍』の見直し	
	第15回 実習の総括と今後の課題	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	日常的な授業における取組状況(出席、参加度)、実習報告の内容、実習報告会準備への参画、実習報告書『轍』の内容を総合的に評価する。

日常点評価は、評価基準に基づいて厳しく行う。欠席1回1点、遅刻0.5点、レポート提出なし1点、レポート提出遅れ0.5点で減点を行い、5点以上減点となった場合に不合格となる。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

授業中に情報提供する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

授業中に情報提供する。

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class (Including Instructor Contact Information)

その他 / Others

拡張項目

社会福祉援助技術実習指導Ⅲ (SD)

13316

担当者名 / Instructor 山田 尋志

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

この授業は、「社会福祉援助技術演習」と連動しており、「社会福祉援助技術現場実習」の事後学習として位置づけられる。各自が実習の内容とそこで学んだことについてクラスで報告し、他の受講生と教員からのフィードバックを得て振り返りを行うなかで、問題についての理解を深め、自分自身への気づきを得る場とする。実習中に感じた疑問や新たに気づいた問題についての学習も行う。また、実習全体を評価して、達成できたことを確認するとともに、今後の課題についても検討する。さらに、実習報告書『轍』の作成と実習報告会を通して、実習の成果をまとめ、他の施設・機関や他分野で実習した人と学びを共有する。

到達目標 / Attainment Objectives

1. 福祉サービスの利用者や住民、地域を理論やモデルの基づいて理解し、問題の解決・予防、状況改善のための具体的な方法(福祉実践)を提案することができる。2. 実習先分野で社会福祉士に求められる基本的スキルを身につけている。また今後、自分が取り組む課題を把握できている。3. 個別の問題の背景にある社会構造や経緯についての理解を踏まえ、わが国の社会福祉制度・政策について長所と改善すべき点について述べることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本科目の履修にあたり、「社会福祉援助技術実習指導Ⅲ」を前年度に履修すること、「社会福祉援助技術演習Ⅰ」「社会福祉援助技術実習指導Ⅱ」「社会福祉援助技術現場実習」を同年度に履修することが必要である。また「社会福祉援助技術論」「ソーシャルワーク論」および実習分野に関わる社会福祉士指定科目を履修していることが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	第1回 授業の概要と導入	
	第2回 実習の振り返り	
	第3回 実習報告とグループスーパービジョン	
	第4回 実習報告とグループスーパービジョン	
	第5回 実習報告とグループスーパービジョン	
	第6回 実習報告とグループスーパービジョン	
	第7回 実習報告会準備、課題についての学習	
	第8回 実習報告会準備、課題についての学習	
	第9回 実習報告会準備、課題についての学習	
	第10回 実習報告書『轍』作成準備	
	第11回 実習報告会①	
	第12回 実習報告会②	
	第13回 実習報告会の振り返りと補足	
	第14回 実習報告書『轍』の見直し	
	第15回 実習の総括と今後の課題	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	日常的な授業における取組状況(出席、参加度)、実習報告の内容、実習報告会準備への参画、実習報告書『轍』の内容を総合的に評価する。

日常点評価は、評価基準に基づいて厳しく行う。欠席1回1点、遅刻0.5点、レポート提出なし1点、レポート提出遅れ0.5点で減点を行い、5点以上減点となった場合に不合格となる。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

授業中に情報提供する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

授業中に情報提供する。

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class (Including Instructor Contact Information)

その他 / Others

拡張項目

社会福祉援助技術実習指導Ⅲ (SE)

13317

担当者名 / Instructor 池添 素

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

この授業は、「社会福祉援助技術演習」と連動しており、「社会福祉援助技術現場実習」の事後学習として位置づけられる。各自が実習の内容とそこで学んだことについてクラスで報告し、他の受講生と教員からのフィードバックを得て振り返りを行うなかで、問題についての理解を深め、自分自身への気づきを得る場とする。実習中に感じた疑問や新たに気づいた問題についての学習も行う。また、実習全体を評価して、達成できたことを確認するとともに、今後の課題についても検討する。さらに、実習報告書『鞆』の作成と実習報告会を通して、実習の成果をまとめ、他の施設・機関や他分野で実習した人と学びを共有する。

到達目標 / Attainment Objectives

1. 福祉サービスの利用者や住民、地域を理論やモデルの基づいて理解し、問題の解決・予防、状況改善のための具体的な方法(福祉実践)を提案することができる。2. 実習先分野で社会福祉士に求められる基本的スキルを身につけている。また今後、自分が取り組む課題を把握できている。3. 個別の問題の背景にある社会構造や経緯についての理解を踏まえ、わが国の社会福祉制度・政策について長所と改善すべき点について述べる事ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本科目の履修にあたり、「社会福祉援助技術実習指導Ⅲ」を前年度に履修すること、「社会福祉援助技術演習Ⅰ」「社会福祉援助技術実習指導Ⅱ」「社会福祉援助技術現場実習」を同年度に履修することが必要である。また「社会福祉援助技術論」「ソーシャルワーク論」および実習分野に関わる社会福祉士指定科目を履修していることが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	第1回 授業の概要と導入	
	第2回 実習の振り返り	
	第3回 実習報告とグループスーパービジョン	
	第4回 実習報告とグループスーパービジョン	
	第5回 実習報告とグループスーパービジョン	
	第6回 実習報告とグループスーパービジョン	
	第7回 実習報告会準備、課題についての学習	
	第8回 実習報告会準備、課題についての学習	
	第9回 実習報告会準備、課題についての学習	
	第10回 実習報告書『鞆』作成準備	
	第11回 実習報告会①	
	第12回 実習報告会②	
	第13回 実習報告会の振り返りと補足	
	第14回 実習報告書『鞆』の見直し	
	第15回 実習の総括と今後の課題	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	日常的な授業における取組状況(出席、参加度)、実習報告の内容、実習報告会準備への参画、実習報告書『鞆』の内容を総合的に評価する。

日常点評価は、評価基準に基づいて厳しく行う。欠席1回1点、遅刻0.5点、レポート提出なし1点、レポート提出遅れ0.5点で減点を行い、5点以上減点となった場合に不合格となる。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

授業中に情報提供する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

授業中に情報提供する。

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class (Including Instructor Contact Information)

その他 / Others

拡張項目

精神保健福祉援助演習 (S)

12398

担当者名 / Instructor 岡田 まり

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

この授業では、「精神保健福祉援助実習」「精神保健福祉現場実習」と連動しながら、様々な講義科目で学ぶ事柄を統合して精神保健福祉援助に係る知識と技能を実践的に身につけることを目的とする。そのため、授業のなかでは、情報収集、プレゼンテーション、議論、ディベート、ロールプレイ、グループワーク、事例検討、ケースメソッド、ツールの活用など多様な演習活動を通して受講生が知識を得るだけでなく、その知識を実際に応用して態度や行動に反映できるようになることをめざす。

到達目標 / Attainment Objectives

1. 精神障害者の現状やニーズ、ストレス、環境について具体的に理解し説明することができる。
2. 精神保健福祉士の役割、倫理、介入の方法とプロセス、社会資源について知り、実際に援助を行うための基礎的な力をつけている。
3. 精神保健福祉士となるうえでの自分自身の強みと課題に気づき、今後どのように取り組むを続けるか述べるができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本科目を履修するためには、前年度に「社会福祉援助技術実習指導I」(精神保健福祉士課程履修者向け)を履修しておかなければならない。また、同年度に「精神保健福祉援助実習」と「精神保健福祉現場実習」を履修しなければならない。さらに、精神保健福祉士課程の専門科目をできるだけ前年度もしくは同年度に履修しておくことが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業の概要と導入	演習の目的、進め方、スケジュール
2	精神保健福祉領域におけるソーシャルワーク	根拠、理念、使命、実践
3	支援の進め方	目的、目標、計画、振り返り
4	当事者	生活のしづらさ、環境、ニーズ、ストレス
5	精神保健福祉士	視点、役割、機能、専門職、倫理、ジレンマ
6	社会資源	政策、法律、制度、施設・機関、サービス、インフォーマルな資源
7	ソーシャルワーク実践のプロセス①	個人、家族
8	ソーシャルワーク実践のプロセス②	組織、地域
9	援助における関係	原則、パートナーシップ、境界、自己覚知
10	コミュニケーション①	マイクロカウンセリング、モチベーショナルインタビュー、記録
11	コミュニケーション②	マイクロカウンセリング、モチベーショナルインタビュー、記録
12	地域移行・地域生活支援	ソーシャルインクルージョン、リカバリー、ケアマネジメント、アウトリーチ
13	グループワーク	グループの利点とリスク、カ動、プロセス、プログラム
14	組織・地域への働きかけ	連携、協働、チームワーク、スーパービジョン、コンサルテーション、アドボカシー
15	様々な場面での対応	生活技能訓練(SST)
16	後期授業の概要と導入	スケジュール、ルール設定、
17	実習の振り返りを通して①	体験、思考、感情
18	実習の振り返りを通して②	当事者、環境
19	実習の振り返りを通して③	精神保健福祉士の役割、職務内容、課題

20	ケーススタディ(実習報告から)①	
21	ケーススタディ(実習報告から)②	
22	ケーススタディ(実習報告から)③	
23	入院患者・施設入所者への支援	緊急時・急性期、社会的入院、地域移行、居住系サービス
24	地域生活支援	相談援助、ケアマネジメント、アウトリーチ、通所・訪問サービス、危機介入
25	権利擁護	アドボカシー、日常生活自立支援事業、成年後見制度
26	就労支援	働くことの意義、援助機関、事業、IPS
27	家族支援	家族の状況とニーズ、心理教育、認知行動スキルの習得
28	専門職	専門職の要件、あるべき姿、職能団体
29	自己覚知	自分のストレンクスと課題、目標、計画
30	振り返りと今後	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

授業では、テーマに応じて事前に文献資料やミニ課題が提示されるので、授業までにそれらを読み課題を済ませてくる必要である。演習は、課題を行ったことを前提に進められる。また、授業で学んだことを、授業外の日常生活のなかで活用し内省することを繰り返すことがスキルアップにつながるので、意識的に取り組むことが望まれる。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	日常的な授業における取組状況(出席、演習活動、発表・報告)およびレポートなどを総合的に評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

この授業は、専門職養成の一環で、単に知識だけでなくスキル習得を目指すので、演習活動には積極的に参加することが重要である。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

随時、紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class (Including Instructor Contact Information)

インタラクティブシート / Interactive Sheet

manaba+R / Learning Management System (manaba+R)

その他 / Others

拡張項目

精神保健福祉援助実習 (S)

12512

担当者名 / Instructor 岡田 まり

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

この授業では、「精神保健福祉援助演習」と連動しながら「精神保健福祉現場実習」の成果が最大限に高まるように現場実習の事前事後学習を行う。前期には、実習施設・利用者・福祉実践についての学習を行うとともに、実習の目的と意義を確認し、実習計画をたてて事前準備を行う。後期には、現場実習について振り返り、さらに学習を行うなかで理解を深め、新たな課題に気づき取り組めるようにする。

到達目標 / Attainment Objectives

1. 精神障害者のおかれている現状を理解し、その生活実態や生活上の課題を把握する。
2. 精神保健福祉分野での相談援助に係る専門知識と技術について具体的・实际的に理解し体得する。
3. 関連分野との連携のあり方と具体的な内容について理解する。
4. 精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力をもつ。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本科目を履修するためには、前年度に「社会福祉援助技術実習指導I」(精神保健福祉士課程履修者向け)を履修しておかなければならない。また、同年度に「精神保健福祉援助演習」と「精神保健福祉現場実習」を履修しなければならない。さらに、精神保健福祉士課程の専門科目をできるだけ前年度もしくは同年度に履修しておくことが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業の概要と導入	実習の目的、意義、スケジュール
2	事前学習の内容と方法	学習すべき項目、学習方法
3	実習計画の立て方	目的、意義、目標、課題、評価方法
4	事前学習①	精神障害者、家族、地域
5	事前学習②	政策、法律、制度、施設・機関、インフォーマルな資源
6	事前学習③	精神保健福祉士の役割、価値、倫理
7	事前学習④	記録、スーパービジョン
8	実習計画の発表と修正	実習の目的、意義、目標、課題、評価方法
9	実習計画の再発表	実習の目的、意義、目標、課題、評価方法
10	関係	原則、自己覚知
11	コミュニケーション	種類、プロセス、留意点、面接技法
12	生活支援	理念、生活技能訓練、環境調整、ケースマネジメント、社会資源
13	グループワーク	グループワークの効果、力動、プロセス、プログラム、ワーカーの役割
14	地域介入	調整、ネットワーク、地域開発、計画
15	実習直前ガイダンス	現場実習に係る手続き、様々な状況への対処
16	後期授業の概要と導入	スケジュール、実習報告の仕方、実習報告書の書き方
17	現場実習の振り返り①	実習中の体験と感情
18	現場実習の振り返り②	当事者と環境
19	現場実習の振り返り③	精神保健福祉士の役割と職務内容

20 実習報告①	個人発表、質疑応答、他
21 実習報告②	個人発表、質疑応答、他
22 実習報告③	個人発表、質疑応答、他
23 事後学習①	実習を通して明らかになった課題
24 事後学習②	実習を通して明らかになった課題
25 事後学習③	実習を通して明らかになった課題
26 実習報告書の内容発表①	文書の様式、内容、倫理的配慮
27 実習報告書の再発表②	文書の様式、内容、倫理的配慮
28 実習報告会(日程変更の可能性あり)	
29 専門職と自分	自己覚知、社会と専門職、職能団体
30 振り返りと今後の課題	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

この授業では、授業外学習の指針と内容について明らかにするとともに、受講生が行った授業外学習の内容と成果について確認し、より深い理解や技能習得ができるよう支援する。そのため、随時、授業外学習について示すので、それについて主体的に取り組むことが必要である。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	日常的な授業における取組状況(出席、演習活動、発表・報告)および提出物(実習計画書、レポート、実習報告書)を総合的に評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

随時、紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class (Including Instructor Contact Information)

インタラクティブシート / Interactive Sheet

manaba+R / Learning Management System (manaba+R)

その他 / Others

拡張項目

精神保健福祉現場実習 (S)

20471

担当者名 / Instructor 岡田 まり

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

履修者は、実習指導室を通して配属された施設・機関において180時間以上の現場実習を行う。実習内容は、事前に精神保健福祉援助実習で作成した実習計画にそったもので、実習受入施設の指導者から随時指導をうけながら課題に取り組む。また、実習担当教員による巡回指導も受ける。

到達目標 / Attainment Objectives

1. 精神障害者のおかれている現状を理解し、その生活実態や生活上の課題を把握する。
2. 精神保健福祉分野での相談援助に係る専門知識と技術について具体的・实际的に理解し体得する。
3. 関連分野との連携のあり方と具体的な内容について理解する。
4. 精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力をもつ。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本科目履修のためには、前年度に「社会福祉援助技術実習指導I」(精神保健福祉士課程履修者向け)を履修しておかなければならない。また、同年度に「精神保健福祉援助実習」「精神保健福祉援助演習」を履修しなければならない。さらに、精神保健福祉士指定科目をできるだけ多く履修しておくことが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class (Including Instructor Contact Information)

manaba+R / Learning Management System (manaba+R)

その他 / Others

拡張項目

(教)介護等体験実習(Q1)

14974

担当者名 / Instructor 朝野 浩

単位数 / Credit 1

授業の概要 / Course Outline

介護等体験特例法に定められた要件を満たす体験実習として、本科目においては、特別支援学校2日間と社会福祉施設5日間の「介護等体験」(障害者、高齢者等に対する介護、介助、これらの者との交流等の体験)を行う。計7日間の体験実習を通じて、義務教育に従事する教員をめざす者として、個人の尊厳及び社会連帯の理念に関する認識を深めていくことをめざす。

到達目標 / Attainment Objectives

特別支援学校2日間、社会福祉施設5日間の計7日間の「介護等体験」(障害者、高齢者等に対する介護、介助、これらの人との交流等の体験)実習を通じて、義務教育に従事する教員を目指す者として、個人の尊厳及び社会連帯についての感性と認識を深める。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

他の教職課程科目。なお、本科目は、前年度に「(教)介護等体験の研究(1単位)」の単位を修得していなければ、受講することができない。

授業スケジュール / Course Schedule

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	「P(合格)」「F(不合格)」による評価。詳細は備考参照。

体験先での取り組み状況や「終了報告書(レポート)」等を総合的に評価する。

なお、「介護等体験証明書のコピー」および「終了報告書」を、体験終了後1週間以内に必ず提出すること。「終了報告書」の提出がなければ成績評価対象とはならないので、特に注意すること。

【提出先】衣笠:教職教育課(至徳館1階)、BKC:教職教育課(BKC)(ユニオンスクエア1階)

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class (Including Instructor Contact Information)

その他 / Others

本科目は、所属キャンパス・学部の別によらず、このクラス(Q1クラス)を受講登録すること。

拡張項目

(教)介護等体験の研究 (GA)

16180

担当者名 / Instructor 朝野 浩

単位数 / Credit 1

授業の概要 / Course Outline

「介護等体験」は、1998年度より施行された「介護等体験特例法」に基づき、義務教育学校(小・中学校)の教員になるための必須要件となった制度である。この制度化の位置付けは、「人の心の痛みがわかる人づくりの実現に資することを目的とする」(文部科学省)とされている。また、その社会的背景として、急速に進行している少子高齢社会の現実がある。近い将来、この少子高齢社会を支える担い手の減少状況を見据えた時、教育(とりわけ義務教育課程)における福祉的視点と実践的態度の育成が焦眉の課題であり、教員の資質として期待されている。本授業は、「介護等体験実習」の事前指導として、実習をより充実させるための理論的・実践的内容で構成する。

到達目標 / Attainment Objectives

「介護等体験」を行う場所、「特別支援学校」と「社会福祉施設」についての知識(理念・実態・課題等)を得ることにより、教職を目指すものとして、障害のある人々や高齢者・障害者・幼児児童等に対する理解を深め、「介護等体験」への意欲的姿勢を培う。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

小学校、中学校教員免許状の取得に必要な科目

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	第1回10/2(火) イントロダクション(オリエンテーション): 「介護等体験」の位置付けとその意義。実施までの流れと登録手続きおよび受講クラスの確定	「2013年度体験者向け 介護等体験の手引き」(冊子) 風疹抗体検査の手続きおよび介護等体験参加申し込み(登録)
	第2回10/16(火) 「特別支援学校」についてⅠ(講義)－「特別支援教育」の現状及び障害のある幼児児童生徒の実態と理解	障害観の変遷および自分にとっての障害とは
	第3回10/30(火) 「特別支援学校」についてⅡ(講義)－「特別支援学校」の概要及び現状理解と「介護等体験」実施の様子	【中間レポート】「講義を聞いて3つのキーワードを選び記述および障害について思うこと」
	第4回11/13(火) 「社会福祉施設」についてⅠ(講義)－高齢者福祉施設の現状と課題	施設長等による外部講師の講義
	第5回11/27(火) 「社会福祉施設」についてⅡ(講義)－障害者福祉施設の現状と課題	施設長等による外部講師の講義
	第6回12/11(火) 「介護等体験」実施に向けての自己理解(グループワーク等)	※座席指定・グループ編成 ★次回の期日(必ず出席)に注意すること!!

第7回 ※12/18(火)
「介護等体験」参加するに当たっての心構えとまとめ(講義・先輩の体験談等)
【★出席必須 ◎終了レポート提出一当日課題提示】
※例年と異なっている所以期日に注意!

「介護等体験の手引き」「フィリア」「よくわかる社会福祉施設」「講義配布資料」座席指定・グループ編成

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

特別支援学校インターンシップおよび障害児サークル・ボランティアに積極的に参加

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	<p>◎「介護等体験」は教職を目指す者としての最初の就職活動として取り組む心構えが必要である。その意義をよく理解し、熱意を持って授業に臨めたかどうかを最大の評価基準とする。原則として、全出席を最重要視する。</p> <p>◎特に、最終日(7回目)の出席及びレポート提出は必須である。欠席はF評価となる。…本年度は6回目と7回目は連続している所以、期日に注意すること。</p> <p>◎評価方法は下記「備考欄」の内容を踏まえて「P/F評価」とする。</p> <p>◎公欠事由: ①出席停止(感染症)に該当する病気 ②忌引き(2親等以内の血族・姻族) ③災害 ④交通機関の延着 ⑤教育実習等(4回生以上、大学で確認)</p>

【出席要件】

- ・5回以上の出席及び最終日の出席と「最終レポート」の提出をもって「P」評価とする。最終日の欠席は、5回以上出席していても「F」評価となるので、要注意である。そのため原則としてすべての授業への出席が必須となる。毎回、出席カード等(QRコード貼付のコミュニケーションカード)を持って出席確認を行う。
- ・事前届出の有無を問わず、3回以上欠席した場合は「F評価」とする。ただし、公欠事由を除く。
- ・また、「遅刻」「QRコード票無貼付」「私語」についても厳しく評価を行なう。QRコード票についても、2回貼付忘れの場合には、別途レポート課題を課し、提出をもって評価対象とする。
- ・20分超える「遅刻」の場合についても、欠席扱いとする。
- ・「私語」「携帯電話」「飲食」「無断途中退席」などについても厳しく評価を行う。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

小学校・中学校教員免許取得のために義務付けられている科目であるが、教職を目指す者として、今日の社会的課題である「ノーマライゼーション理念の具現化」に向けた実践的経験の場として自らの人権感覚を磨き、常識ある行動をとれるよう、積極的な姿勢を望む。

教科書 / Textbooks

テキストは使用しないが、「介護等体験の手引き(改訂版)」「フィリア」「よくわかる社会福祉施設」を参考に使う。
また、2回目以降、適宜資料配付を行う。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
障害者白書2011版2012版	社団法人日本発達障害福祉連盟 / 日本文化科学社 / /
特別支援教育基本用語100	上野一彦他 / 明治図書 / /

「フィリア」「よくわかる社会福祉施設」「手引き冊子」は、授業時において別途配布する(介護等体験履修料@3000-に中に含む)。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

授業で学ぶ内容をより深めるために、各特別支援学校ホーム・ページや児童福祉施設・障害者福祉・高齢者福祉などの関連したページを検索し参照することを勧める。

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class (Including Instructor Contact Information)

インタラクティブシート / Interactive Sheet

その他 / Others

出席管理には「QRコード・シール」を使用する。
受講生は必ず毎回「QRコード・シール」を持参すること。
2回忘れた場合には別途レポート課題を課し評価対象とする

拡張項目

(教)介護等体験の研究 (GB)

16181

担当者名 / Instructor 朝野 浩

単位数 / Credit 1

授業の概要 / Course Outline

「介護等体験」は、1998年度より施行された「介護等体験特例法」に基づき、義務教育学校(小・中学校)の教員になるための必須要件となった制度である。この制度化の位置付けは、「人の心の痛みがわかる人づくりの実現に資することを目的とする」(文部科学省)とされている。また、その社会的背景として、急速に進行している少子高齢化の現実がある。近い将来、この高齢社会を支える担い手の減少状況を見据えた時、教育(とりわけ義務教育課程)における福祉的視点と実践的態度の育成が焦眉の課題であり、教員の資質として期待されている。本授業は、「介護等体験実習」の事前指導として、実習をより充実させるための理論的・実践的内容で構成する。

到達目標 / Attainment Objectives

「介護等体験」を行う場所、「特別支援学校」と「社会福祉施設」についての知識(理念・実態・課題等)を得ることにより、教職を目指すものとして、障害のある人々や高齢者・障害者・幼児児童等に対する理解を深め、「介護等体験」への意欲的姿勢を培う。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

小学校、中学校教員免許状の取得に必要な科目

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回 10/3(水)	イントロダクション(オリエンテーション): 「介護等体験」の位置付けとその意義。実施までの流れと登録手続きおよび受講クラスの確定	「2013年度体験者向け 介護等体験の手引き」(冊子) 風疹抗体検査の手続きおよび介護等体験参加申し込み(登録)
第2回 10/17(水)	「特別支援学校」についてⅠ(講義)―「特別支援教育」の現状及び障害のある幼児児童生徒の実態と理解	障害観の変遷および自分にとっての障害とは
第3回 10/31(水)	「特別支援学校」についてⅡ(講義)―「特別支援学校」の概要及び現状理解と「介護等体験」実施の様子	【中間レポート】「講義を聞いて3つのキーワードを選び記述および障害について思うこと」
第4回 11/14(水)	「社会福祉施設」についてⅠ(講義)―高齢者福祉施設の現状と課題	施設長等による外部講師の講義
第5回 11/28(水)	「社会福祉施設」についてⅡ(講義)―障害者福祉施設の現状と課題	施設長等による外部講師の講義
第6回 12/12(水)	「介護等体験」実施に向けての自己理解(グループ・ワーク等)	※座席指定・グループ編成 ★次回の期日(必ず出席)に注意すること!!
第7回 ※12/19(水)	「介護等体験」参加するに当たっての心構えとまとめ(講義・先輩の体験談等) 【★出席必須 ◎終了レポート提出一当日課題提示】 ※例年と異なっているので期日に注意!	「介護等体験の手引き」「フィリア」「よくわかる社会福祉施設」「講義配布資料」座席指定・グループ編成

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

特別支援学校インターンシップおよび障害児サークル・ボランティアに積極的に参加

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	◎「介護等体験」は教職を目指す者としての最初の就職活動として取り組む心構えが必要である。その意義をよく理解し、熱意を持って授業に臨めたかどうかを最大の評価基準とする。原則として、全出席を最重要視する。 ◎特に、最終日(7回目)の出席及びレポート提出は必須である。欠席はF評価となる。…本年度は6回目と7回目は連続しているので、期日に注意すること。 ◎評価方法は下記「備考欄」の内容を踏まえて「P/F評価」とする。 ◎公欠事由:

- ①出席停止(感染症)に該当する病気
- ②忌引き(2親等以内の血族・姻族)
- ③災害
- ④交通機関の延着
- ⑤教育実習等(4回生以上、大学で確認)

【出席要件】

- ・5回以上の出席及び最終日の出席と「最終レポート」の提出をもって「P」評価とする。
最終日の欠席は、5回以上出席していても「F」評価となるので、要注意である。
そのため原則としてすべての授業への出席が必須となる。毎回、出席カード等(QRコード貼付のコミュニケーションカード)を持って出席確認を行う。
- ・事前届出の有無を問わず、3回以上欠席した場合は「F評価」とする。ただし、公欠事由を除く。
- ・また、「遅刻」「QRコード票無貼付」「私語」についても厳しく評価を行なう。
QRコード票についても、2回貼付忘れの場合には、別途レポート課題を課し、提出をもって評価対象とする。
- ・20分超える「遅刻」の場合についても、欠席扱いとする。
- ・「私語」「携帯電話」「飲食」「無断途中退席」などについても厳しく評価を行う。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

小学校・中学校教員免許取得のために義務付けられている科目であるが、教職を目指す者として、今日の社会的課題である「ノーマライゼーション理念の具現化」に向けた実践的経験の場として自らの人権感覚を磨き、常識ある行動をとれるよう、積極的な姿勢を望む。

教科書 / Textbooks

テキストは使用しないが、「介護等体験の手引き」(改訂版)「フィリア」「よくわかる社会福祉施設」を参考に使う。
また、2回目以降、適宜資料配付を行う。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
障害者白書2011版2012版	社団法人日本発達障害福祉連盟 / 日本文化科学社 / /
特別支援教育基本用語100	上野一彦他 / 明治図書 / /

「フィリア」「よくわかる社会福祉施設」「手引き冊子」は、授業時において別途配布する(介護等体験履修料@3000-に中に含む)。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

授業で学ぶ内容をより深めるために、各特別支援学校ホーム・ページや児童福祉施・障害者福祉・高齢者福祉などの関連したページを検索し参照することを勧める。

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class (Including Instructor Contact Information)

インタラクティブシート / Interactive Sheet

その他 / Others

- 出席管理には「QRコード・シール」を使用する。
- 受講生は必ず毎回「QRコード・シール」を持参すること。
- 2回忘れた場合には別途レポート課題を課し評価対象とする

拡張項目

(教) 介護等体験の研究 (GC)

16185

担当者名 / Instructor 朝野 浩

単位数 / Credit 1

授業の概要 / Course Outline

「介護等体験」は、1998年度より施行された「介護等体験特例法」に基づき、義務教育学校(小・中学校)の教員になるための必須要件となった制度である。この制度化の位置付けは、「人の心の痛みがわかる人づくりの実現に資することを目的とする」(文部科学省)とされている。また、その社会的背景として、急速に進行している少子高齢化の現実がある。近い将来、この高齢社会を支える担い手の減少状況を見据えた時、教育(とりわけ義務教育課程)における福祉的視点と実践的態度の育成が焦眉の課題であり、教員の資質として期待されている。本授業は、「介護等体験実習」の事前指導として、実習をより充実させるための理論的・実践的内容で構成する。

到達目標 / Attainment Objectives

「介護等体験」を行う場所、「特別支援学校」と「社会福祉施設」についての知識(理念・実態・課題等)を得ることにより、教職を目指すものとして、障害のある人々や高齢者・障害者・幼児児童等に対する理解を深め、「介護等体験」への意欲的姿勢を培う。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

小学校、中学校教員免許状の取得に必要な科目

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回 10/3(水)	イントロダクション(オリエンテーション): 「介護等体験」の位置付けとその意義。実施までの流れと登録手続きおよび受講クラスの確定	「2013年度体験者向け 介護等体験の手引き」(冊子) 風疹抗体検査の手続きおよび介護等体験参加申し込み(登録)
第2回 10/17(水)	「特別支援学校」についてⅠ(講義)－「特別支援教育」の現状及び障害のある幼児児童生徒の実態と理解	障害観の変遷および自分にとっての障害とは
第3回 10/31(水)	「特別支援学校」についてⅡ(講義)－「特別支援学校」の概要及び現状理解と「介護等体験」実施の様子	【中間レポート】「講義を聞いて3つのキーワードを選び記述および障害について思うこと」
第4回 11/14(水)	「社会福祉施設」についてⅠ(講義)－高齢者福祉施設の現状と課題	施設長等による外部講師の講義
第5回 11/28(水)	「社会福祉施設」についてⅡ(講義)－障害者福祉施設の現状と課題	施設長等による外部講師の講義
第6回 12/12(水)	「介護等体験」実施に向けての自己理解(グループ・ワーク等)	※座席指定・グループ編成 ★次回の期日(必ず出席)に注意すること!!
第7回 ※12/19(水)	「介護等体験」参加するに当たっての心構えとまとめ(講義・先輩の体験談等) 【★出席必須 ◎終了レポート提出一当日課題提示】 ※例年と異なっているので期日に注意!	「介護等体験の手引き」「フィリア」「よくわかる社会福祉施設」「講義配布資料」座席指定・グループ編成

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

特別支援学校インターンシップおよび障害児サークル・ボランティアに積極的に参加

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	◎「介護等体験」は教職を目指す者としての最初の就職活動として取り組む心構えが必要である。その意義をよく理解し、熱意を持って授業に臨めたかどうかを最大の評価基準とする。原則として、全出席を最重要視する。 ◎特に、最終日(7回目)の出席及びレポート提出は必須である。欠席はF評価となる。…本年度は6回目と7回目は連続しているため、期日に注意すること。 ◎評価方法は下記「備考欄」の内容を踏まえて「P/F評価」とする。 ◎公欠事由: ①出席停止(感染症)に該当する病気 ②忌引き(2親等以内の血族・姻族)

- ③災害
- ④交通機関の延着
- ⑤教育実習等(4回生以上、大学で確認)

【出席要件】

- ・5回以上の出席及び最終日の出席と「最終レポート」の提出をもって「P」評価とする。
最終日の欠席は、5回以上出席していても「F」評価となるので、要注意である。
そのため原則としてすべての授業への出席が必須となる。毎回、出席カード等(QRコード貼付のコミュニケーションカード)を持って出席確認を行う。
- ・事前届出の有無を問わず、3回以上欠席した場合は「F評価」とする。ただし、公欠事由を除く。
- ・また、「遅刻」「QRコード票無貼付」「私語」についても厳しく評価を行なう。
QRコード票についても、2回貼付忘れの場合には、別途レポート課題を課し、提出をもって評価対象とする。
- ・20分超える「遅刻」の場合についても、欠席扱いとする。
- ・「私語」「携帯電話」「飲食」「無断途中退席」などについても厳しく評価を行う。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

小学校・中学校教員免許取得のために義務付けられている科目であるが、教職を目指す者として、今日の社会的課題である「ノーマライゼーション理念の具現化」に向けた実践的経験の場として自らの人権感覚を磨き、常識ある行動をとれるよう、積極的な姿勢を望む。

教科書 / Textbooks

テキストは使用しないが、「介護等体験の手引き(改訂版)」「フィリア」「よくわかる社会福祉施設」を参考に使う。
また、2回目以降、適宜資料配付を行う。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
障害者白書2011版2012版	社団法人日本発達障害福祉連盟 / 日本文化科学社 / /
特別支援教育基本用語100	上野一彦他 / 明治図書 / /

「フィリア」「よくわかる社会福祉施設」「手引き冊子」は、授業時において別途配布する(介護等体験履修料@3000-に中に含む)。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

授業で学ぶ内容をより深めるために、各特別支援学校ホーム・ページや児童福祉施・障害者福祉・高齢者福祉などの関連したページを検索し参照することを勧める。

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class (Including Instructor Contact Information)

インタラクティブシート / Interactive Sheet

その他 / Others

出席管理には「QRコード・シール」を使用する。
受講生は必ず毎回「QRコード・シール」を持参すること。
2回忘れた場合には別途レポート課題を課し評価対象とする

拡張項目

(教)初等教育実習 I (SA)

15042

担当者名 / Instructor 中西 仁

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「初等教育実習 I」は、実習年度に実施される直前ガイダンス、実習校実習、事後指導から成り立っている。
必要な手続きを行い、そのすべてを履修しなければならない。

到達目標 / Attainment Objectives

- ◇教育実践に必要な知識・技能を体験的に理解・習得する。
- ◇児童・学校についての理解を深める。
- ◇教師としての資質向上に関する課題意識を育てる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「教育実習 I」の受講条件となっている科目について、実習前年度までに単位を修得しておかなければならない。詳細は産業社会学部履修要項の「子ども社会専攻学生の小学校一種免許状の取得について」のページを参照のこと。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	1 教育実習直前ガイダンス	
	2 実習校(立命館小学校)における教育実習(2週間)	
	3 教育実習事後指導	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	直前ガイダンス、事後指導ならびに、実習校における成績評価等を総合的に評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

『初等教育実習の手引き』立命館大学産業社会学部小学校教員養成課程

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class (Including Instructor Contact Information)

その他 / Others

直前ガイダンス・事後指導の内容や日程等については、後日発表するので、小学校教員養成課程サポートセンターからの連絡や掲示に十分注意すること。

拡張項目

(教)初等教育実習 I (SB)

15043

担当者名 / Instructor 山下 芳樹

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「初等教育実習 I」は、実習年度に実施される直前ガイダンス、実習校実習、事後指導から成り立っている。必要な手続きを行い、そのすべてを履修しなければならない。

到達目標 / Attainment Objectives

◇教育実践に必要な知識・技能を体験的に理解・習得する。◇児童・学校についての理解を深める。◇教師としての資質向上に関する課題意識を育てる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「教育実習 I」の受講条件となっている科目について、実習前年度までに単位を修得しておかなければならない。詳細は産業社会学部履修要項の「子ども社会専攻学生の小学校一種免許状の取得について」のページを参照のこと。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	1 教育実習直前ガイダンス	
	2 実習校(立命館小学校)における教育実習(2週間)	
	3 教育実習事後指導	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	直前ガイダンス、事後指導ならびに、実習校における成績評価等を総合的に評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

『初等教育実習の手引き』立命館大学産業社会学部小学校教員養成課程

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class (Including Instructor Contact Information)

その他 / Others

直前ガイダンス・事後指導の内容や日程等については、後日発表するので、小学校教員養成課程サポートセンターからの連絡や掲示に十分注意すること。

拡張項目

(教)初等教育実習Ⅱ(事後指導を含む)(SA)

15115

担当者名 / Instructor 伊藤 隆司

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「(教)初等教育実習Ⅱ(事後指導を含む)」は、実習年度(4年生)の直前ガイダンス、実習校実習、事後指導から成り立っており、必要な手続きを行い、そのすべてに出席することが求められる。

到達目標 / Attainment Objectives

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「(教)初等教育実習Ⅱ(事後指導を含む)」の受講条件となっている科目について、実習前年度までに単位を修得しておかなければならない。

授業スケジュール / Course Schedule

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	オリエンテーション・ガイダンス、ならびに事後指導や特別授業への出席状況、実習校における成績評価等を総合的に評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class (Including Instructor Contact Information)

その他 / Others

受講登録にあたっては、各自が受講した「初等教育実習の研究(事前指導)」と同一クラスを登録すること。

拡張項目

(教)初等教育実習Ⅱ(事後指導を含む)(SB)

15116

担当者名 / Instructor 野田 正人

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「(教)初等教育実習Ⅱ(事後指導を含む)」は、実習年度(4年生)の直前ガイダンス、実習校実習、事後指導から成り立っており、必要な手続きを行い、そのすべてに出席することが求められる。

到達目標 / Attainment Objectives

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「(教)初等教育実習Ⅱ(事後指導を含む)」の受講条件となっている科目について、実習前年度までに単位を修得しておかなければならない。

授業スケジュール / Course Schedule

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	オリエンテーション・ガイダンス、ならびに事後指導や特別授業への出席状況、実習校における成績評価等を総合的に評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class (Including Instructor Contact Information)

その他 / Others

受講登録にあたっては、各自が受講した「初等教育実習の研究(事前指導)」と同一クラスを登録すること。

拡張項目

(教)初等教育実習Ⅱ(事後指導を含む)(X)

15118

担当者名 / Instructor 森田 真樹

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「(教)初等教育実習Ⅱ(事後指導を含む)」は、実習年度(4年生)の直前ガイダンス、実習校実習、事後指導から成り立っており、必要な手続きを行い、そのすべてに出席することが求められる。

到達目標 / Attainment Objectives

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「(教)初等教育実習Ⅱ(事後指導を含む)」の受講条件となっている科目について、実習前年度までに単位を修得しておかなければならない。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	事後指導を11月に実施します。詳細は、別途連絡します。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	オリエンテーション・ガイダンス、ならびに事後指導や特別授業への出席状況、実習校における成績評価等を総合的に評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class (Including Instructor Contact Information)

その他 / Others

受講登録にあたっては、各自が受講した「初等教育実習の研究(事前指導)」と同一クラスを登録すること。

拡張項目

(教)初等教育実習Ⅲ(事後指導を含む)(SA)

20198

担当者名 / Instructor 伊藤 隆司

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

「(教)初等教育実習Ⅱ(事後指導を含む)」は、実習年度(4年生)の直前ガイダンス、実習校実習、事後指導から成り立っており、必要な手続きを行い、そのすべてに出席することが求められる。

到達目標 / Attainment Objectives

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「(教)初等教育実習Ⅱ(事後指導を含む)」の受講条件となっている科目について、実習前年度までに単位を修得しておかなければならない。

授業スケジュール / Course Schedule

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	オリエンテーション・ガイダンス、ならびに事後指導や特別授業への出席状況、実習校における成績評価等を総合的に評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class (Including Instructor Contact Information)

その他 / Others

受講登録にあたっては、各自が受講した「初等教育実習の研究(事前指導)」と同一クラスを登録すること。

拡張項目

(教)初等教育実習Ⅲ(事後指導を含む)(SB)

20199

担当者名 / Instructor 野田 正人

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

「(教)初等教育実習Ⅱ(事後指導を含む)」は、実習年度(4年生)の直前ガイダンス、実習校実習、事後指導から成り立っており、必要な手続きを行い、そのすべてに出席することが求められる。

到達目標 / Attainment Objectives

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「(教)初等教育実習Ⅱ(事後指導を含む)」の受講条件となっている科目について、実習前年度までに単位を修得しておかなければならない。

授業スケジュール / Course Schedule

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	オリエンテーション・ガイダンス、ならびに事後指導や特別授業への出席状況、実習校における成績評価等を総合的に評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class (Including Instructor Contact Information)

その他 / Others

受講登録にあたっては、各自が受講した「初等教育実習の研究(事前指導)」と同一クラスを登録すること。

拡張項目

(教)初等教育実習の研究A (SA)

11764

担当者名 / Instructor 石田 智巳

単位数 / Credit 1

授業の概要 / Course Outline

本授業の履修対象者は、産業社会学部子ども社会専攻の学生で、小学校にて教育実習を行う学生である。内容は小学校での教育実習の事前指導に位置付くものである。内容は、立命館小学校授業観察や、授業づくり、指導案の書き方などで構成される。

到達目標 / Attainment Objectives

- ・教育実習の意義と内容が理解でき、心構えができる。
- ・立命館小学校の取り組みについて理解し、教育実習に必要な知識、理解を獲得できる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

他の初等教職の科目、とりわけ、教育実習受講条件として実習前年度中に単位修得する 必要のある科目を中心に履修しておくことが望まれる。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1 【10月3日(水)】 ガイダンス		担当者による講義(教育実習の概要と実習の手引きについて) ポートフォリオの振り返り(2回生前期実施分)
2 【10月17日(水)】 小学校における教育実習とは		立命館小学校教員による講話
3 【10月31日(水)】 小学校における児童理解と生活指導について		小学校教員による講話
4-5 【11月14日(水)】 小学校における学習指導の実際		立命館小学校における授業観察
6 【11月28日(水)】 小学校における学習指導について		立命館小学校教員による講話
7-8 【12月15日(土)】 小学校における教育実習と大学での学びについて		小学校教員による講話及び上回生との経験交流

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

教育実習受講に際しての事前指導科目であるので、真摯で責任ある態度で臨むこと。また、日頃より新聞報道や書物講読等を通して、教育をめぐる社会動向やトピックに常に関心を向け、理解しておくこと。さらに、実習教科に関する指導法や教科専門性を養うため、いわゆる指導法系科目や「教科に関する科目」の履修を通して研鑽に努めること。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	出席とレポート等で総合的に評価する。 3回以上の欠席は単位不認。 20分以上の遅刻は欠席扱いとする。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
まると立命館小メソッド！～発見・創造、基礎基本～	立命館小学校／学事出版／978-4761916497／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class (Including Instructor Contact Information)

その他 / Others

拡張項目

(教)初等教育実習の研究A (SB)

11765

担当者名 / Instructor 角田 将士

単位数 / Credit 1

授業の概要 / Course Outline

本授業の履修対象者は、産業社会学部子ども社会専攻の学生で、小学校にて教育実習を行う学生である。内容は小学校での教育実習の事前指導に位置付くものである。内容は、立命館小学校授業観察や、授業づくり、指導案の書き方などで構成される。

到達目標 / Attainment Objectives

- ・教育実習の意義と内容が理解でき、心構えができる。
- ・立命館小学校の取り組みについて理解し、教育実習に必要な知識、理解を獲得できる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

他の初等教職の科目、とりわけ、教育実習受講条件として実習前年度中に単位修得する 必要のある科目を中心に履修しておくことが望まれる。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1 【10月3日(水)】 ガイダンス		担当者による講義(教育実習の概要と実習の手引きについて) ポートフォリオの振り返り(2回生前期実施分)
2 【10月17日(水)】 小学校における教育実習とは		立命館小学校教員による講話
3 【10月31日(水)】 小学校における児童理解と生活指導について		小学校教員による講話
4-5 【11月14日(水)】 小学校における学習指導の実際		立命館小学校における授業観察
6 【11月28日(水)】 小学校における学習指導について		立命館小学校教員による講話
7-8 【12月15日(土)】 小学校における教育実習と大学での学びについて		小学校教員による講話及び上回生との経験交流

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Method

教育実習受講に際しての事前指導科目であるので、真摯で責任ある態度で臨むこと。また、日頃より新聞報道や書物講読等を通して、教育をめぐる社会動向やトピックに常に関心を向け、理解しておくこと。さらに、実習教科に関する指導法や教科専門性を養うため、いわゆる指導法系科目や「教科に関する科目」の履修を通して研鑽に努めること。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	出席とレポート等で総合的に評価する。 3回以上の欠席は単位不認。 20分以上の遅刻は欠席扱いとする。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
まるごと立命館小メソッド！～発見・創造、基礎基本～	立命館小学校／学事出版／978-4761916497／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class (Including Instructor Contact Information)

その他 / Others

拡張項目

